

MIJS調査レポート #2

業務ソフトウェアの導入形態に関するアンケート

2007年11月

メイド・イン・ジャパン・ソフトウェア・コンソーシアム

- **調査概要** p.3
- **サマリー** p.4
- **情報システムの課題と今後の方向性** p.5
- **SaaSの認知状況・利用状況** p.8
- **ASP・SaaSへの「期待」と「懸念」** p.12
- **“MIJS版SaaS”コンセプト評価** p.22
- **Appendix**
 - **回答者プロフィール** p.27
 - **ASP・SaaSへの“期待”コメント全文** p.31
 - **ASP・SaaSへの“懸念”コメント全文** p.43
 - **MIJS版SaaSへのご意見** p.57

- **調査目的:**
 - 情報システムの導入／運用にかかわるITプロフェッショナル層を対象に、業務ソフトウェアの導入形態(およびASP・SaaSへの“期待”と“懸念”)を調査することで、今後のソフトウェアビジネス展開に役立つ情報を収集する。

- **調査方法:** Webサイト上の自記式アンケート

- **調査対象者:** 情報システム導入・開発・運用にかかわるITプロフェッショナル

- **調査期間:** 2007年9月5日～9月26日

- **総回答数:** 802件

- **調査機関:** アイティメディア株式会社

■ 情報システムの課題と今後の方向性

- 現在の情報システムの課題Top3は、「信頼性向上」「生産性向上」および「コスト削減」でした。
- 情報システム部門の方向性を見ても、全体の5割弱が“事業の中核を担うシステムは社内で管理し、それ以外はアウトソーシングを進める”と回答していることから、今後“IT投資の選択と集中による生産性の向上”(情報化月間2007のテーマ)が、進展する見込です。

■ SaaSの認知状況・利用状況

- SaaSの認知率は全体の73%に上っていますが、内容を詳しく知っているのは7.4%に留まっています。
- 現在のASP・SaaS利用率は、全体の15%。同65%が利用を「予定・検討していない」と答えており、“サービスとしてのソフトウェア”需要は、未だ本格化していない状況です。

■ ASP・SaaSへの「期待」と「懸念」

- ASP・SaaSへの期待Top3は、「コスト削減」「短期導入」「運用工数削減」。これらTCOメリットに加えて、業務&システムの標準化による“ビジネス変化への柔軟な対応”を望む声も、多くなっています。
- 逆にASP・SaaSへの懸念としては、「社内アプリケーションとの連携」や「カスタマイズの自由度」が上位に挙げられました。それらに加え、回答者コメントからは“SaaS”概念自体の曖昧さや信頼性/セキュリティ・リスク、特定ベンダによる囲い込みなどへの課題意識が伺えます。

■ “MIJS版SaaS”コンセプト評価

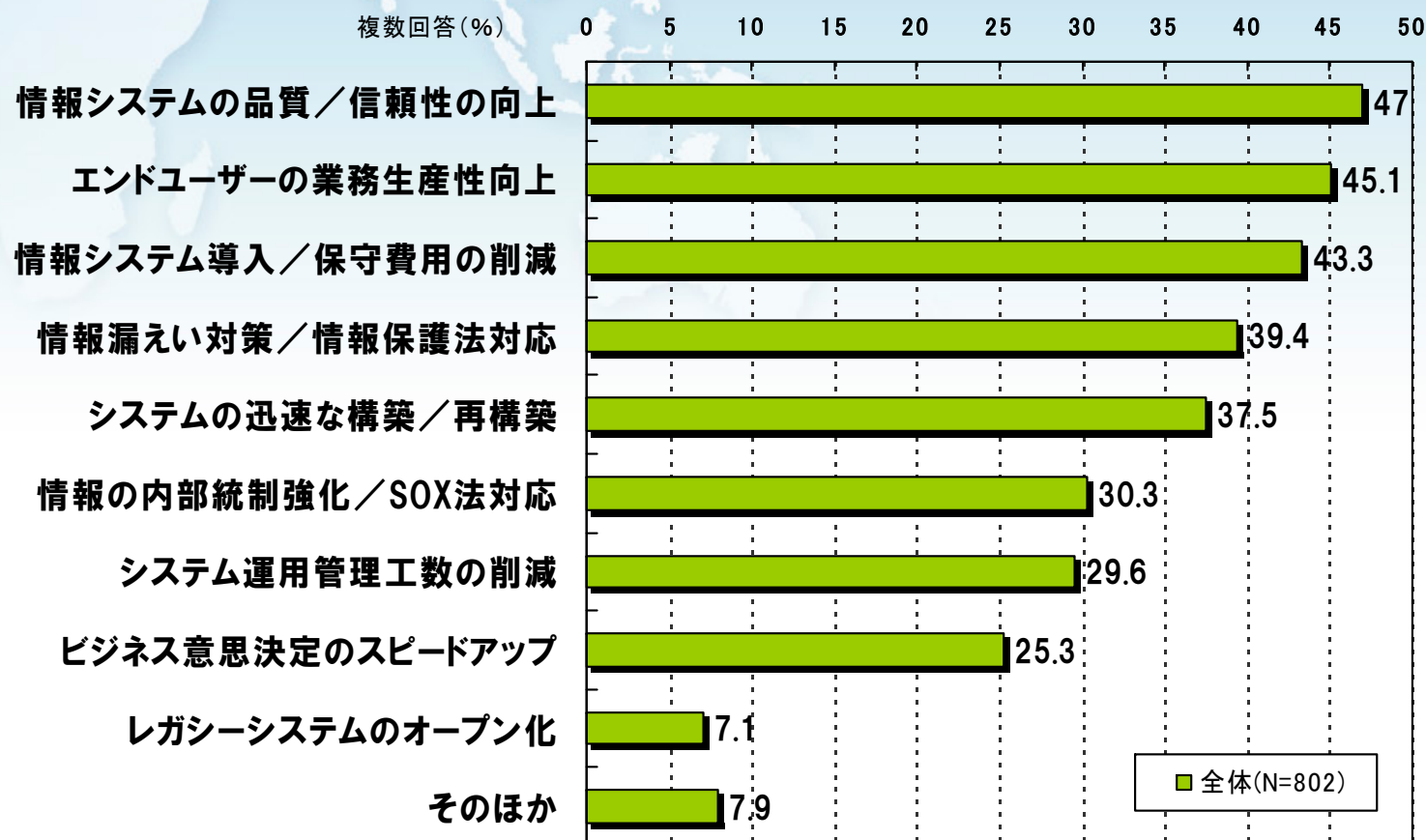
- MIJS版SaaSのコンセプトを提示したところ、全体の47%が興味を示しました。「マスタ連携」「トランザクション連携」といった標準化ベネフィットに加え、「バーチャル検証ラボ」「ポータルサイト」などの取り組みが、ユーザーの興味を喚起しています。MIJSへの期待に応えるためには、今後これらのコンセプトを実践し、事例・実績を積み上げることが求められています。

情報システムの課題と今後の方向性

勤務先情報システムの課題

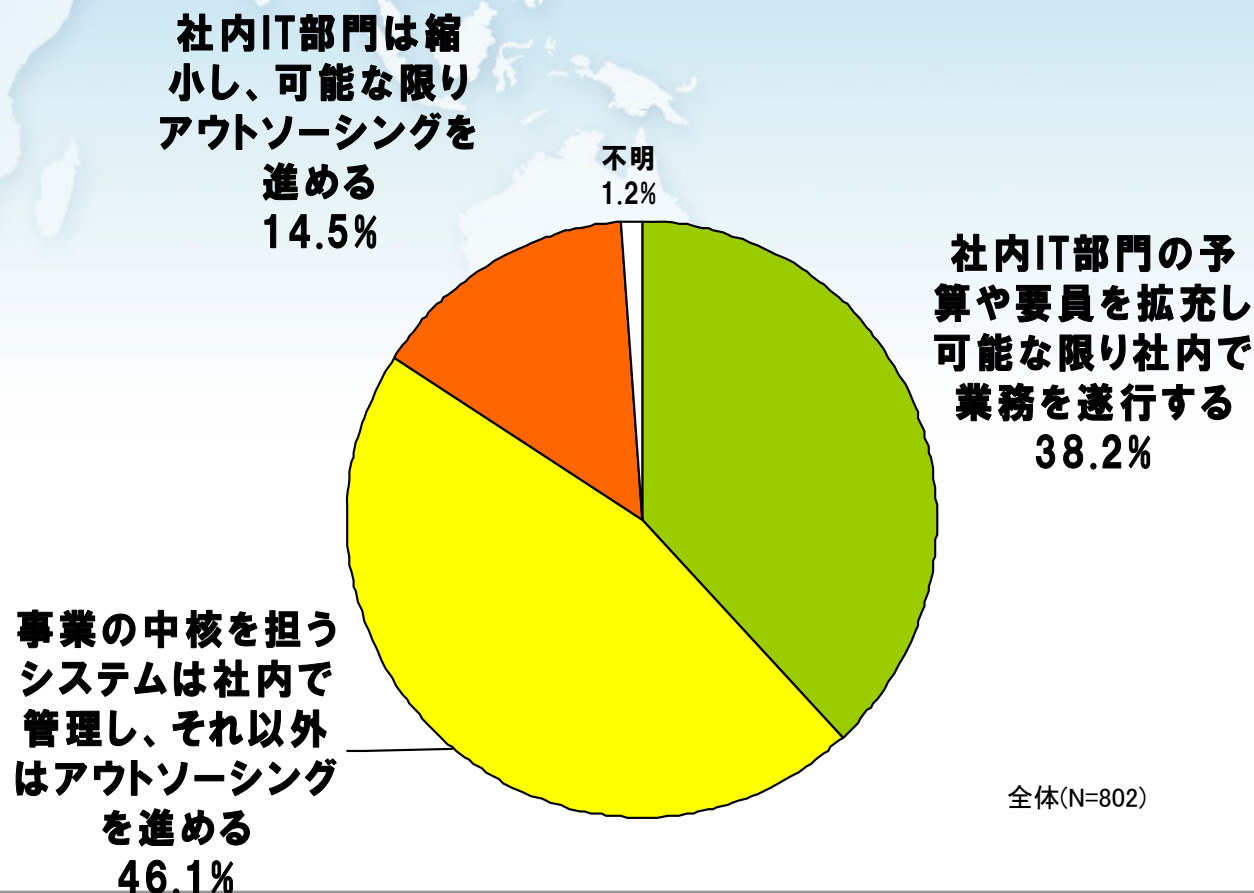
- 情報システム課題のTop3は、「品質／信頼性の向上」、「エンドユーザーの業務生産性向上」および「情報システム導入／保守費用の削減」でした。

・お勤め先の情報システムについて、現在の課題・問題点があれば、いくつでもお選びください。



- 全体の46%が「事業の中核を担うシステムは社内で管理し、それ以外はアウトソーシングを進める」→情報システムの“**選択と集中**”が進む見込みです。

•お勤め先の情報システム業務は、今後どのような方向に向かうと思われますか？あてはまるものを、1つだけお選びください。

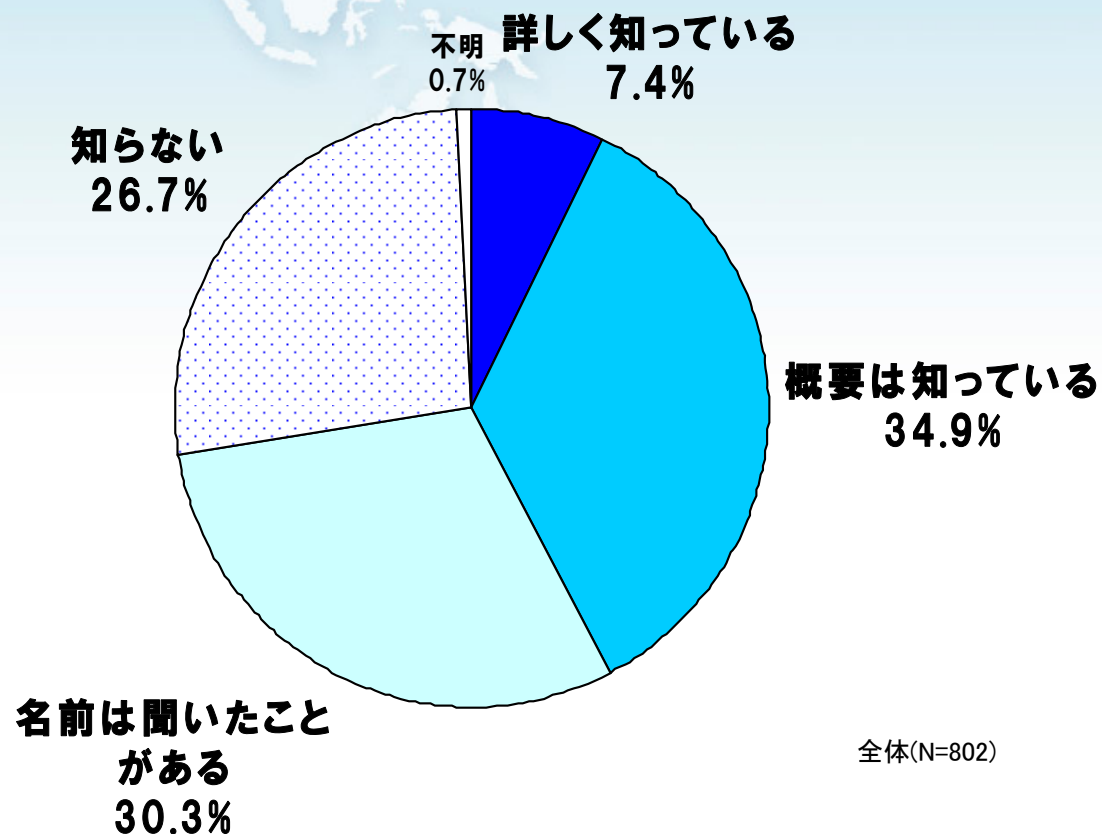


SaaSの認知状況・利用状況

“SaaS” 認知状況

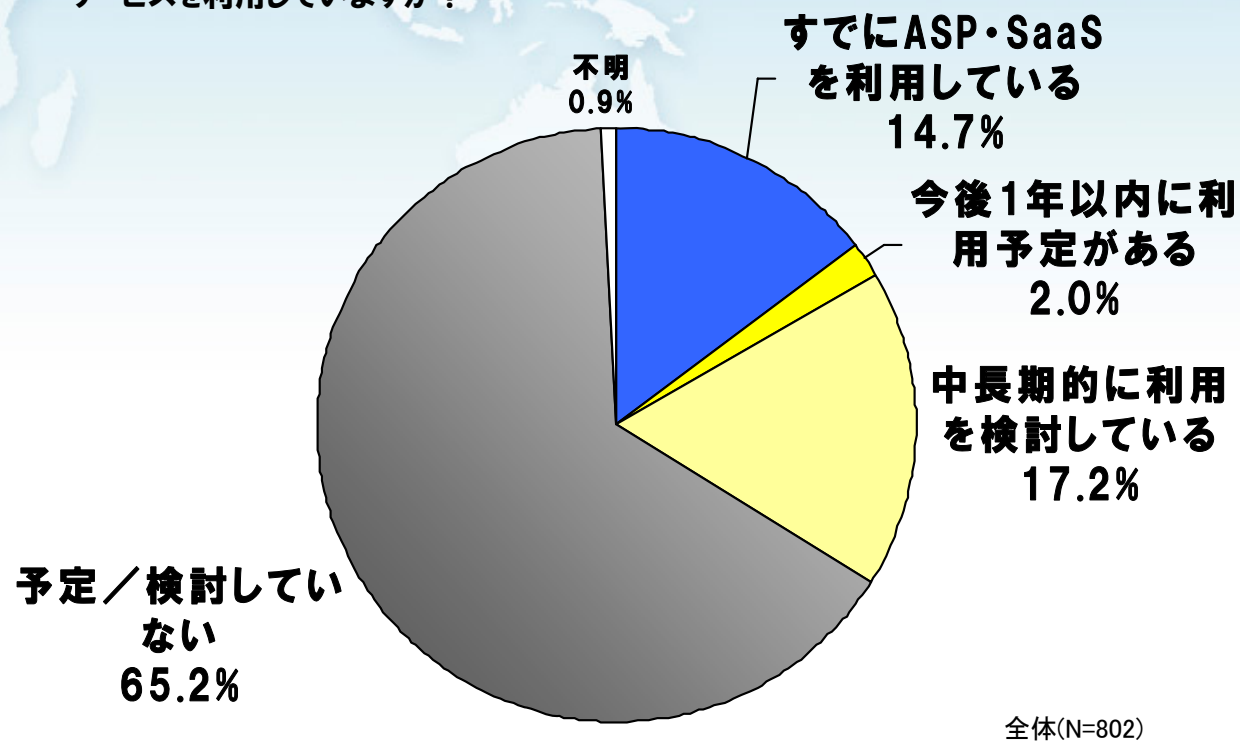
- “SaaS”の認知率は73%に上っていますが、その内容を「詳しく知っている」のは、全体の1割未満です。

•業務ソフトウェアの導入形態のひとつに“SaaS”がありますが、あなたはSaaSについて、どの程度ご存知ですか？



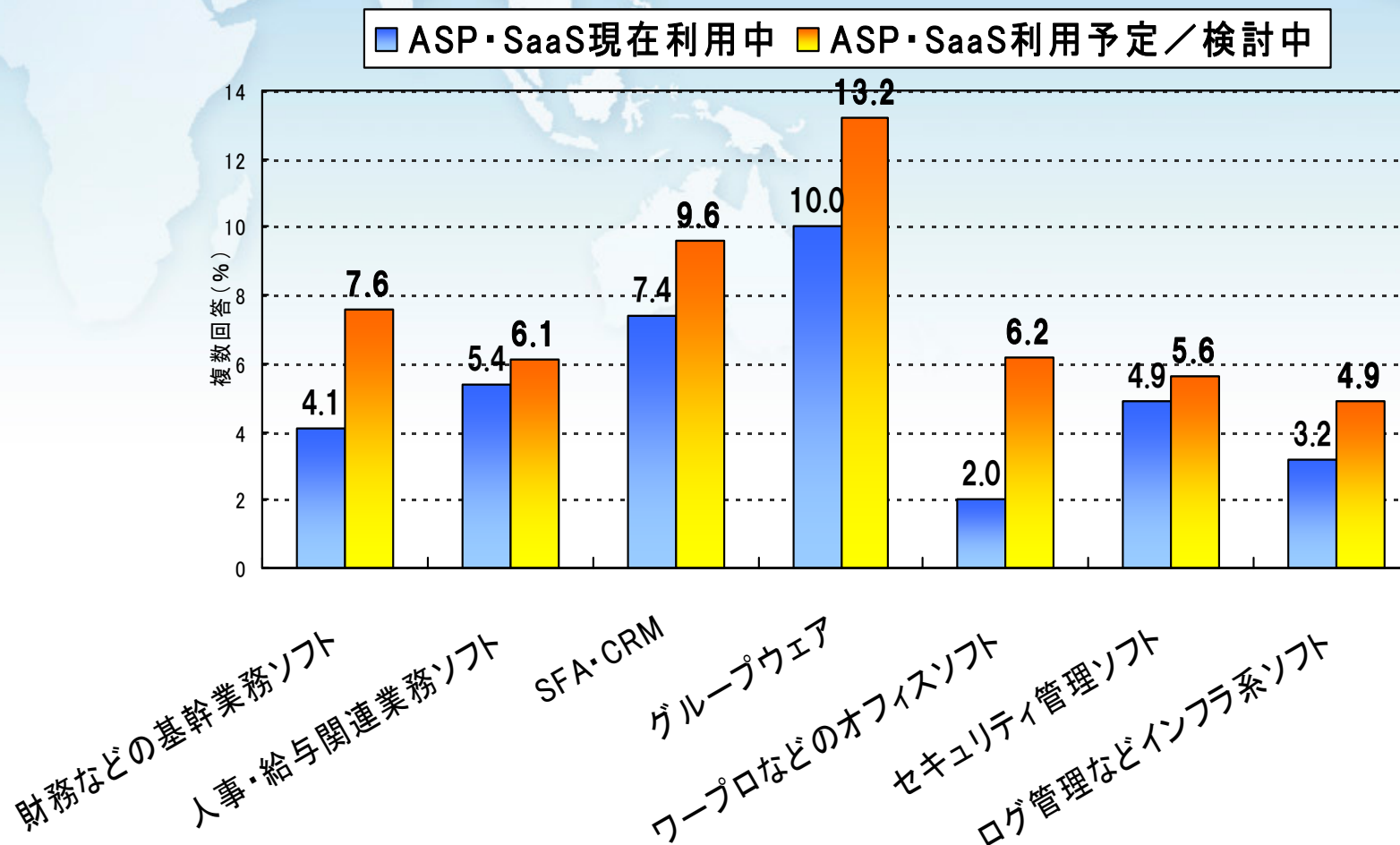
- 現在ASP・SaaSを利用しているのは、全体の15%。一方ASP・SaaSの利用を「予定／検討していない」との回答が、65%を占めています。

・お勤め先では、ネットワーク経由でソフトウェア機能を提供するASP・SaaS形式のサービスを利用していますか？



ASP・SaaSの利用分野

- 現在のASP・SaaS利用分野Top3は、「グループウェア」「SFA・CRM」および「人事・給与関連業務ソフト」でした。今後は基幹業務ソフトやオフィスソフトなどのサービス利用にも、関心が高まっています。

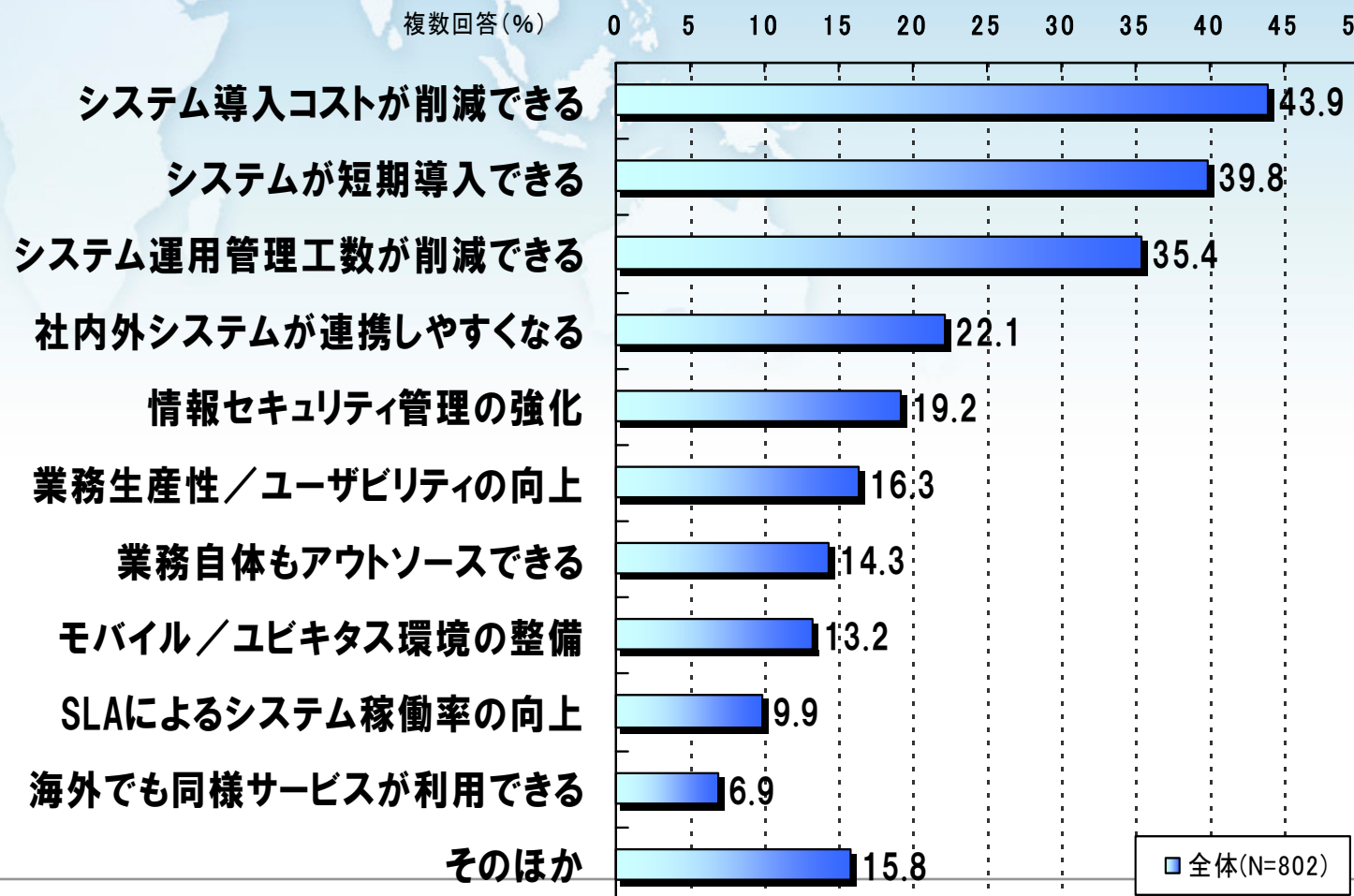


ASP・SaaSへの「期待」と「懸念」

ASP・SaaS への「期待」

- 期待Top3は、「システム導入コストが削減できること」、「システムが短期導入できること」および「システム運用管理工数が削減できること」でした。

•あなたが今後ASP・SaaSに期待するメリット／導入効果があれば、いくつでもお選びください。



あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はなんですか？（自由コメント・サマリー1）

ASP・SaaSの3大メリット：コスト削減、納期短縮、運用工数削減

コストの削減

システム導入コストを低減すること

（ASP）少ない投資で、完全な商品を直ぐに利用できる。

無謀なコストを一か八かでかける必要がないこと

必要な機能を必要な時に利用できることで費用抑制効果

コストパフォーマンスに優れている。眼に見えて人件費（固定費）削減につながる

ネットワークとシステムを一体化して捉えることによるコスト削減効果は無視できない

システム開発コストの削減

運用管理工数の削減

システム運用管理工数が削減できること

システム管理者を企画にまわせる

システム運用に加え、業務自体もアウトソースできる

ユーザー環境の標準化による運用工数の削減（個別にインストール／管理する必要ない）

OSなどの環境のバージョンアップに合わせて、システムを再検討する必要が少なくて済む

個別の端末について維持管理や保守・点検といった作業が軽減されること

導入期間の短縮

ASPに関しては運用のみを考えればよい点、導入が早いのが最大のメリット

短納期・低コストで導入が行えること

システムの早期導入やコスト軽減が計れる可能性があること

システムに業務を合わせる必要はあるが、短時間で導入できること

導入期間が短期間ですみ、仕事がグローバル化する事

既にも実績のあるソフトを短期間で導入できること

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はなんですか？（自由コメント・サマリー2）



ASP・SaaSのメリット：業務とシステムの標準化による Agility の獲得

業務内容の標準化

自社にノウハウがなくても、業務の開始ができる

導入による業務の定型化

企業の競争力に影響しない業務で、標準化・他社の知見活用・コストダウンが見込まれる

ベストプラクティス（ベタープラクティス）が手に入る。

システムの標準化による連携しやすさ

他部署の要求を飲んだ煩雑な独自設定を排して、標準化できること

（他社の導入が進むのであれば）デファクトスタンダードになり、横展開が容易になる

EAI やシステム間連携の標準化

標準化により様々なサービスの中から自社に最適なものを選ぶことができるようになる

標準化により社内外のシステムが連携しやすくなること

標準化の推進が可能になり、他拠点展開が容易になること

自社の独自文化ではなく、標準的なことで進むこと

自社独自仕様ソフトから移行する事で標準化を進め、開発をアウトソースしやすくなる

変化に対応する柔軟性

SaaSは会社の動きに柔軟に対応可能で、システム変更（乗り換え）がさらに容易となる

ビジネスの変化に迅速に対応できること。新しく会社を立ち上げる際に、特に有効

ビジネスモデルの変化への敏速な対応と経費圧縮

業務仕様に合わない場合には利用停止が可能なので フットワークが軽くなるのも魅力的

変化に対する迅速な対応ができそうなことだと考えています。

人材派遣同様、ソフトも必要な時に確保して利用可能な、柔軟な戦略が策定可能である

システム間の連携を速やかにかつ柔軟に実現できること。

業務の変化に柔軟に連携できること

選択と集中

ハード／ソフトの所有負担を無くし、サービスを利用した企業価値向上に専念できる

アウトソーシングによるコアビジネスへの注力が期待できる。

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はなんですか？（自由コメント・サマリー3）



ASP・SaaSのメリット：ユーザビリティの向上、信頼性／安全性の向上

業務生産性の向上

ユーザーインターフェース、規格の統一化が図れる

コストの削減とユーザーの生産性向上

エンドユーザの生産性向上とストレスフリーに見合うコストなら、ペイできる

SaaSはリッチクライアントで高い操作性を実現しているものが多く、快適に業務を行える

ユーザー業務工数の削減

ユーザーの業務生産性／ユーザビリティの向上

モバイル／ユビキタス環境構築

モバイル／ユビキタスコンピューティング環境の実現

ユビキタスコンピューティング環境

モバイル環境にも対応したサービス提供が受けやすい

どこからでもデータを参照できること

社内・社外問わず安全に利用できること

社外でも安全なネットワークが確保できれば仕事ができること

信頼性／安定性

システム稼働率の向上およびコスト

安定したサービスの提供

安定したシステム稼働

職員規模が縮小する中、サービスレベルを落とさず提供を継続できる可能性をもっている

データセンターのように可用性を持っていること

セキュリティ向上

ローカルにデータやソフトウェアを残さない、セキュリティの向上

クライアントのセキュリティ管理

Thinkクライアントのような機能が備わっていること

セキュリティの管理、サービスの均一性。

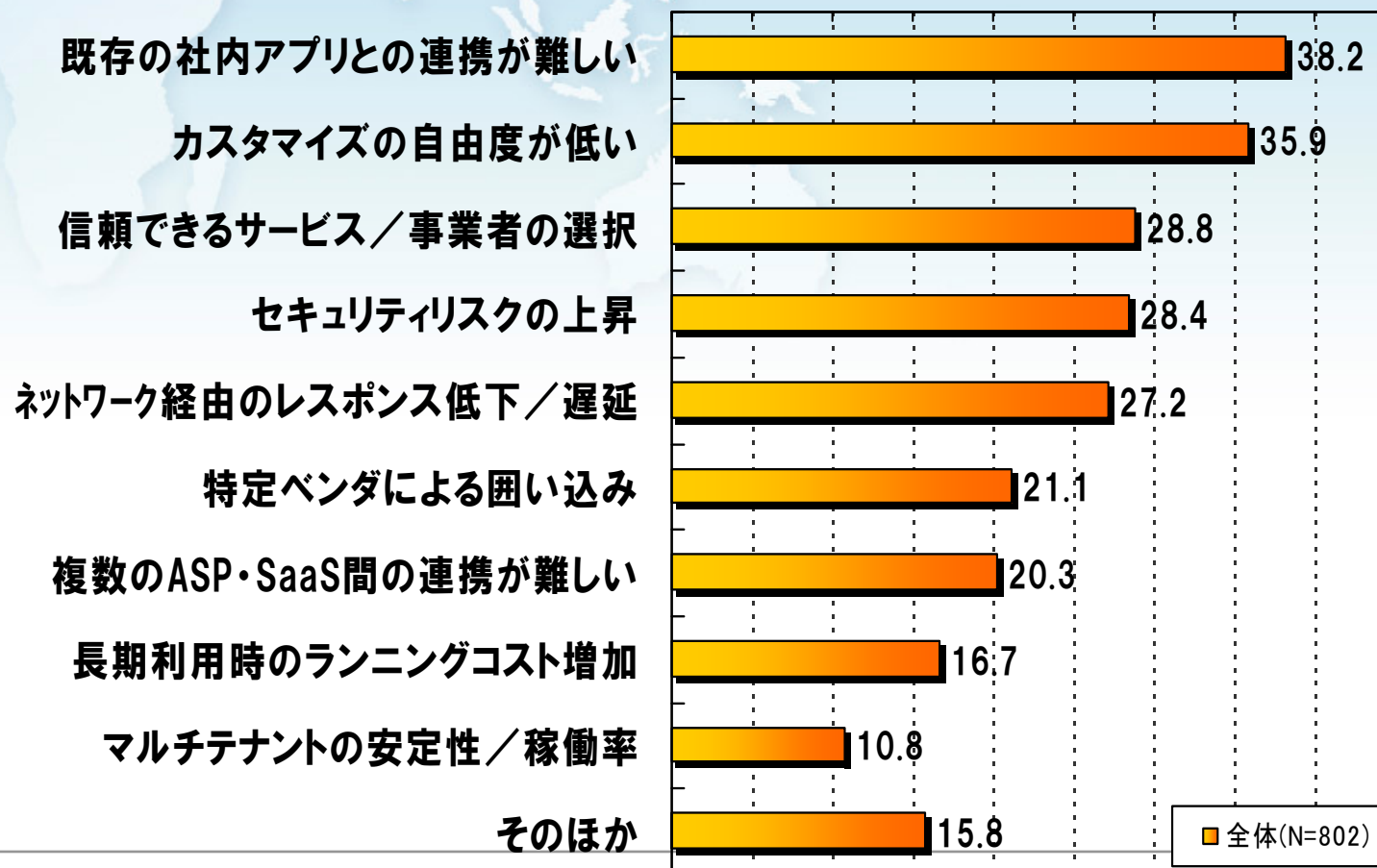
運用管理工数の削減とセキュリティ管理／危機管理

ASP・SaaS への「懸念」

- 「社内アプリケーションとの連携」および「カスタマイズの自由度」が、懸念の上位に挙げられました。

•お勤め先でASP・SaaSを利用する際の課題や懸念があれば、いくつでもお選びください。

複数回答 (%) 0 5 10 15 20 25 30 35 40 45



真のアプリケーション連携がここから始まる

そもそも、“SaaS”とは？

SaaSとは何か？

ASP・SaaS 自体がぼんやりしている。

ASP・SaaSがなにものか良くわかっていない

いわゆる業界のトレンドという理由で金儲けの手段に墮すること

言葉が先行している。実際に価値あるものが提供されることが重要。

ASP同様、SaaSも前評判ばかり目立ち、尻すぼみで消え行く運命なのではないか

社内でSaaSに対する認識が極めて薄く、経営層や情報システム部門で検討すらされない

言われていることが本当に実現できるのか？

導入の成功事例をまだ耳にしたことがない。

上が理解を示さない。説明説得が難しい。漠然とした否定的意見を打ち消す事ができない

アプリをIDC経由で提供するサービスは過去に失敗した。裾野を広げて行けるのか、疑問

まだ実例（成功例）が少ないと感じる。

まだ熟成しきっていない印象を持つ

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント・サマリー2)



ASP・SaaSへの2大懸念：システム連携とカスタマイズの難しさ

システム／サービス連携の難しさ

スクラッチ開発での基幹システムの連携が難しい。基幹システムが古い為

既存システムからの移行／自社製システムへの移行を行う際、データ移行をどうするか

既存のアプリケーションとの連携がスムーズに行くかどうか

既存の基幹システムとの連携の難しさ

複数のASP・SaaSと社内個別仕様のアプリケーションとの連携

複数のSaaSを組み合わせたときの管理の問題

統一感のある運用の欠如

多数のパッケージとのカスタマイズなしで、データ連携できるサービスの提供

国産ASP・SaaSは、APIレベルのマッシュアップに対応していない。

自社システムや他社製品との連携が難しく、全体的に手を加える必要がある

EDI関連の複数のASP業者で、運用・実装ポリシーに差異があること

既存システム・データの継承

カスタマイズの自由度

カスタマイズの自由度が低いだらうと思われること。

自社業務にどれくらいすり合わせができるか

カスタマイズの自由度が制限され、業務部門が使いにくくなり、最悪使用されず元に戻る

自社業務に合わせたカスタマイズの自由度が低い、他社と横並びになってしまう

独自業務をどこまでシステム化でき、社内ユーザにどこまで受け入れられるか懸念される

自社特有な部分の実現が難しく、その部分にコストがかかってしまうケースも考えられる

自社業務に向けたカスタマイズの自由度が低い、もしくはカスタマイズ費用が高い懸念

結局はカスタマイズの要望が出る

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント・サマリー3)



業務アプリケーションの外部化による、事業継続性 & セキュリティ懸念

サービスの信頼性・安定性

ネットワークインフラの事故によって、すべての業務がストップすること。

サーバクラッシュやネットワークのトラブル。特に災害時の復旧が問題と考えている

ネットワーク障害等で簡単に全社が麻痺してしまう

システムダウンしたとき、取引の機会損失をどこまで保証してくれるのか？

基幹業務の場合ネットワーク停止によって業務が止まってしまう恐れがある

通信断絶時に業務が停止する可能性。

サービスレベルの定義と維持

システムダウンまたはネットワーク障害で利用できないときが発生しないか？

中長期的に安定してサービスが提供されるのかどうか。

ネットワーク性能・レスポンス

ネットワーク環境の格差によるレスポンス低下・遅延。

ネットワーク経路のためネットワークのスピードに依存すること

テレビ会議でASPを利用しているが、ネットワーク負荷による音声の途切れが気になる

地方に拠点のある企業では潤沢な通信帯域を確保しにくい

社外ネットワークとのトラフィックが増大していて、新たなパスを作るのは懸念がある

レスポンスが安定していないのではないかと不安である

セキュリティ・リスク

アウトソーサに社内機密を委託するリスク。機密情報を預けて社内保持したいが、コスト的に難しい

セキュリティ面の信頼性。機密情報を預けて問題ないか、ギャランティ含めて懸念

ISMSやPマークを取得しているのに、セキュリティの検討で大抵ボツになる

isms的には、セキュリティリスクの増大が考えられる

業務データのセキュリティリスク、ライバル企業への情報漏えい懸念

大容量の顧客情報をインターネット経由で外部に出すこと

外部委託による情報漏洩のリスクが高まる

情報資産の流出リスクが懸念される

プロバイダが顧客情報等の機密情報を完全に保護しきれないかと不安である

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント・サマリー4)



適切なベンダー／サービスの選択と、健全な関係性の維持

ベンダー／サービスの選択

業務を理解して提案できるベンダーがない

財務処理をアウトソースするには、信頼と実績があるところ以外は任せられない

長期的にサービスの提供が可能で、費用面でも安価な事業者の選定が非常に難しい

信頼できるサービスか否かをどのように見極めるか

必要なサービスを提供しているベンダーを見つけることが困難

ベンダによる囲い込み

ベンダによる 囲い込みにより自社に最適なサービスを組み合わせられなくなる

見えないコスト（カスタマイズ、ユーザ教育など）が壁になり、囲い込まれてしまうこと

乗り換えコスト（習熟度含め）→使い始めたら他に変更できない

実質的な囲い込みになるのではないか。最大のメリットを潰してしまう結果にならないか

いたずらに研修を受けさせ、専任担当を置かせようとする。マニュアル・仕様は非公開

特定ベンダへのロックインが一番の懸念事項

より良いサービスが出現した場合にであっても乗り換えが難しい場合がある

囲い込み、最新サービスやシステム革新から隔離される懸念



IT部門の技術力低下

社内技術力の低下

ユーザ側IT要員の過疎化

社内の能力の空洞化

自社内情報システム部門の技術力低下

社内でのスキル、ノウハウの蓄積ができなくなること

新規システムに乗り換えることがあった場合、社内に詳しい人間がいない

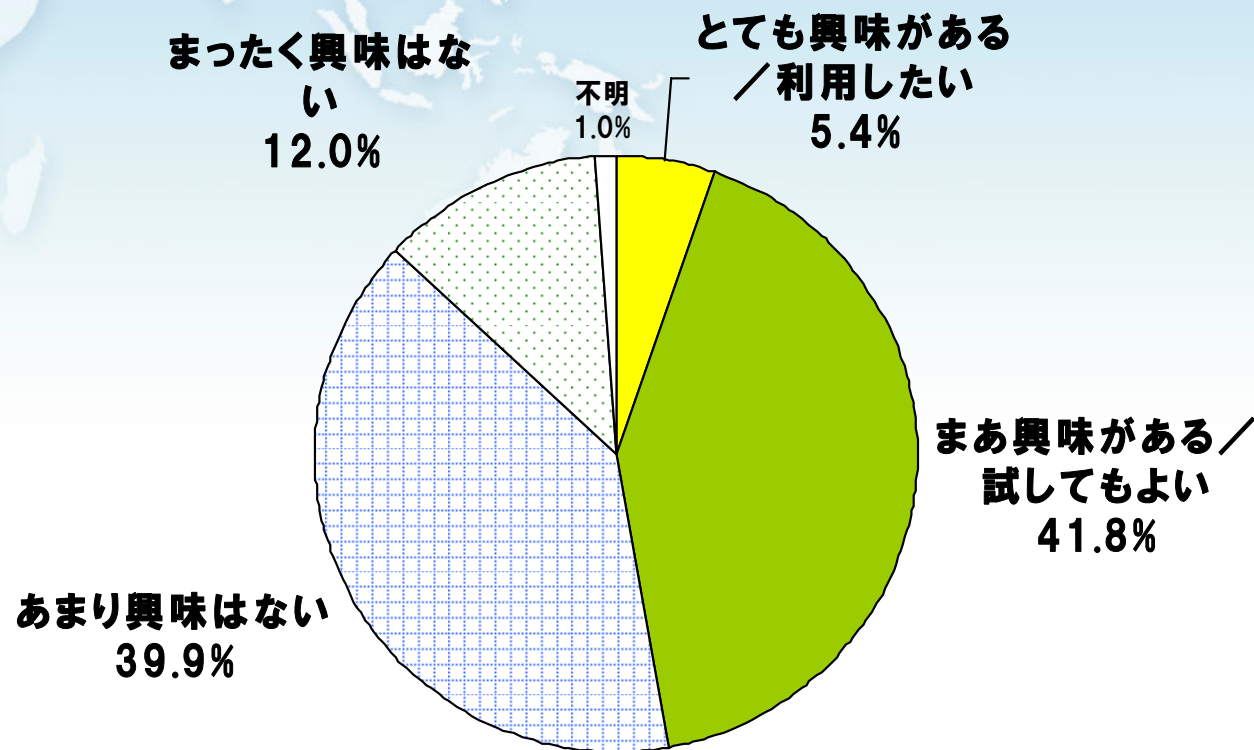
“MIJS版SaaS”コンセプト評価

※MIJSでは、今後SaaS形式によるソフトウェアサービスの提供を検討していきます。以下に挙げるサービス・コンセプトをお読みいただいたうえ、下記設問にお答えください。

- ・【概要】社内外のアプリケーションを標準規格で連携し、1つのソリューションとしてネットワーク経由で提供するサービスです。
- ・【特徴】標準アダプタでデータ／プロセスを連携する「トランザクション連携」
 - ・共通規格で複数アプリケーションのマスタを連携する「マスタ連携」
 - ・複数アプリケーションへのシングルサインオンを実現する「専用ポータルサイト」
 - ・SaaSと社内システムの連携を導入前に検証できる「バーチャル検証ラボ」
 - ・国内と同じサービスを海外でも利用できる「オーバーシーズ・オペレーション」
 - ・複数アプリケーションのサポートを1箇所で受けられる「ワンストップサービス」

- 全体の47%が、MIJS版SaaSに「興味がある」と答えています。

•あなたは上記サービスにどの程度関心をお持ちですか？



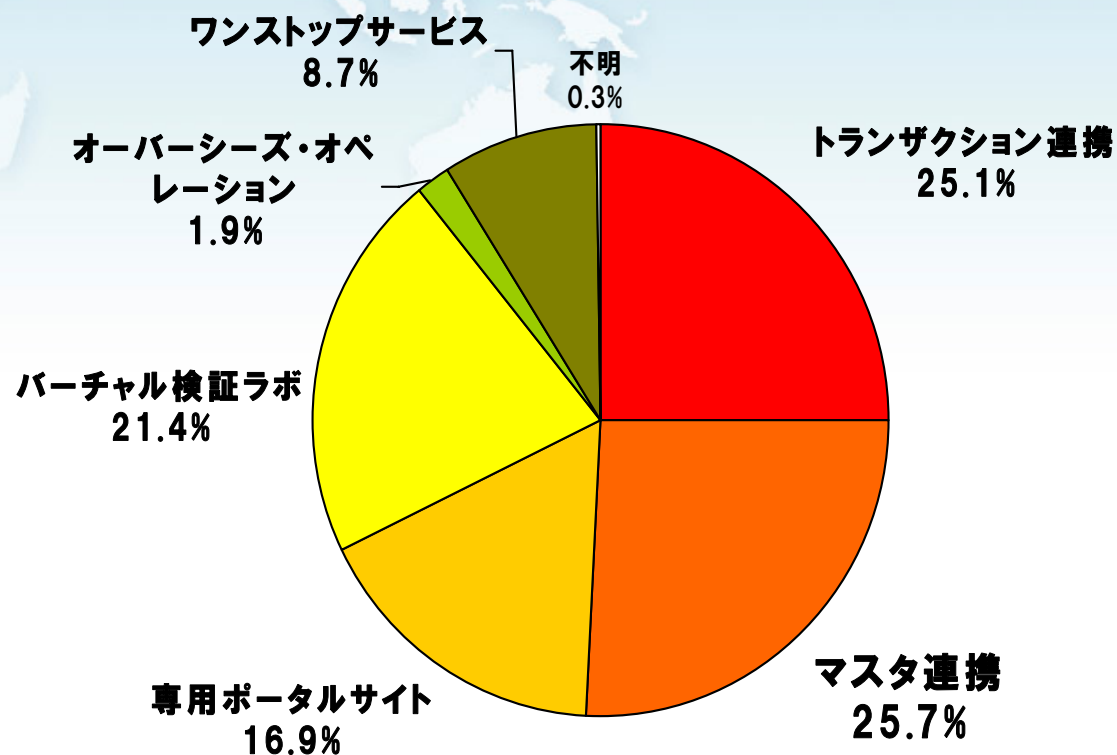
全体(N=802)

MIJS版SaaS: 興味をひかれた特徴



- マスタ連携／トランザクション連携およびバーチャル検証ラボなどの特徴が、MIJS版SaaSの魅力となっています。

•上記サービス特徴の中で、あなたがもっとも興味をひかれたものを、1つだけお選びください。



MIJS版SaaS興味者
(n=378)

上記サービスコンセプトやMIJSへのご意見／ご要望があれば、具体的にお聞かせください。(自由コメント・サマリー1)



MIJS版SaaS:機能／特徴への関心

連携技術への関心

マスタ連携が実現出来れば魅力的だが、詳細な説明(手順・費用・工期)を行って欲しい

データ及びマスタの連携はリアルタイムか?

連携マスタの汎用性が不詳。乗換コストと関連があるので、明朗会計でお願いしたい

基幹システムは、マスタ管理が煩雑化してしまいます。解決策があるとよいです

マスタ連携は非常に難しい。テンプレートのようなものが出来ればあってほしい

基幹系業務との連携は必須ゆえ、トランザクション連携は重要である

バーチャル検証ラボへの関心

一番目を引いたのはバーチャル検証ラボでした。実際にどのように動くのか見てみたい

バーチャル検証ラボは、一定期間貸し出してもらえるのでしょうか

事前検証できるのはいい。フィット&ギャップもしてくれると、もっと助かります

自社導入だけでなく、顧客企業への導入計画の際にも検証ラボ等が利用できると良い

導入前に連携検証できる特徴は素晴らしい。社内導入を検討した後に、承認を得やすそう

高負荷実験やテスト時の具体的なアドバイスをもらえるサービスが欲しい

ポータルサイト／シングルサインオン

SSOは大手が試みているが、広がる目処がない。何が異なっていて、どう実現できるのか

複数アプリケーションへのシングルサインオンはとても魅力的

異なるベンダのソフトをSSOできれば利便性が良くなるが、あまり費用はかけられない

SSO機能はきれいに導入できた例が無い。様々な環境に対応するものを実装して欲しい

ワンストップサービス

サポートを1か所で受けられるのは、ユーザーとしてもありがたいと思う。

ワンストップサービスを上手く実現することができれば、非常にメリットが高い

上記サービスコンセプトやMIJSへのご意見／ご要望があれば、具体的にお聞かせください。(自由コメント・サマリー2)



MIJSへの“期待”と“懸念” ～コンセプトから実践へ～

MIJSへの期待

こういうものは一社でやっても困りこまれるだけ。デファクトを狙ってがんばって欲しい

今後の日本を支える気概を持ってがんばっていただきたい

この手のものは以前から仕様の壁に阻まれてきた。そういう風にはならないでほしい

先進的なことに色々取り組んでいるということがよくわかった

これだけの特徴があれば、安心して導入できる

上記のコンセプトが本当なら素晴らしいです



MIJSへの懸念

MIJS製品は統一プラットフォーム／ミドルウェアが未確立。つぎはぎ機能連携では不十分

MIJS会員同士で製品が競合しているが、そういった製品間での連携に問題はないのか？

参加企業の顔ぶれももう少し広がりを見せないと、共通規格の確立はきびしいのでは？

コンセプトは素晴らしいが、実際にどの程度実現性があるかが課題

そんなに簡単にうまくいくものか？と疑問を覚えてしまう

”標準”って言われても勝手に決めた独自標準。ISO等の業界標準にできるのか

事例・実績の提示

具体的な導入事例を示して欲しい。

事例的なサンプル情報を公開・広告してほしい

実例・成功例を数多く紹介して欲しい

どのような使い方ができるのか、具体例を教えてください。

導入の際にどれだけ効果があるかの具体例がほしい

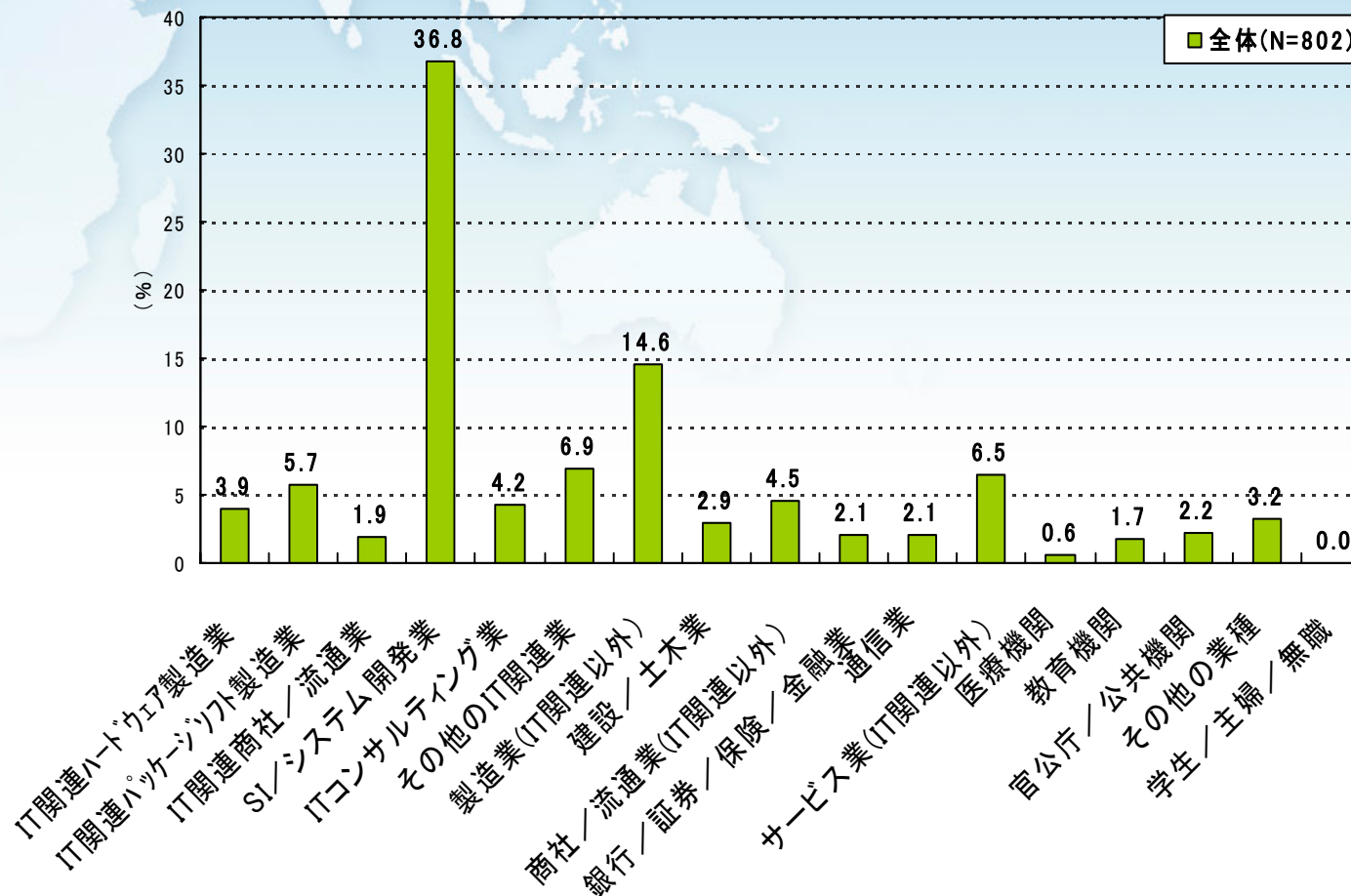
海外等での実績の有無

Appendix

回答者プロフィール

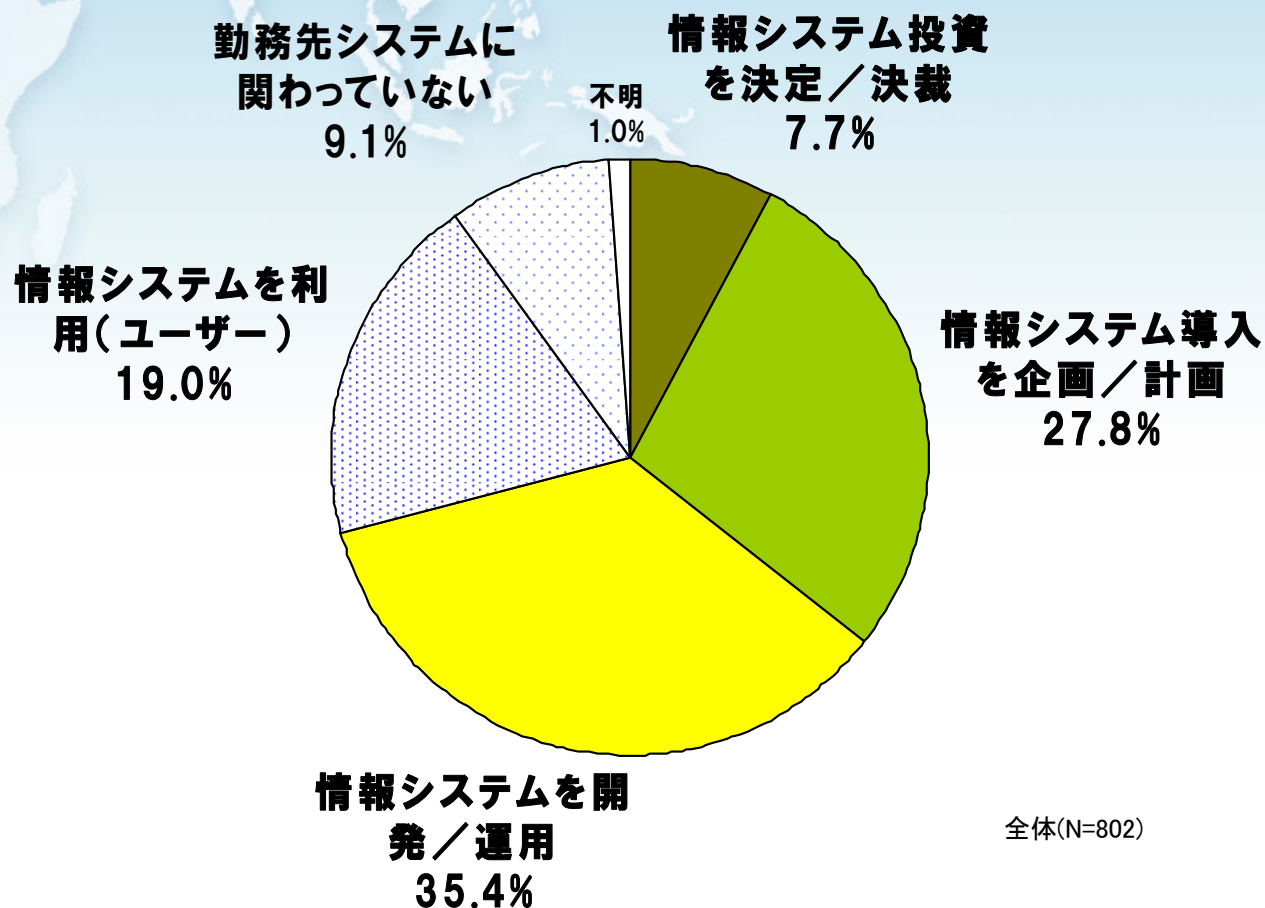
■ IT関連企業勤務者が全体の59%、ユーザー業種が41%です。

•あなたのお勤め先の業種を、ひとつだけお選びください。



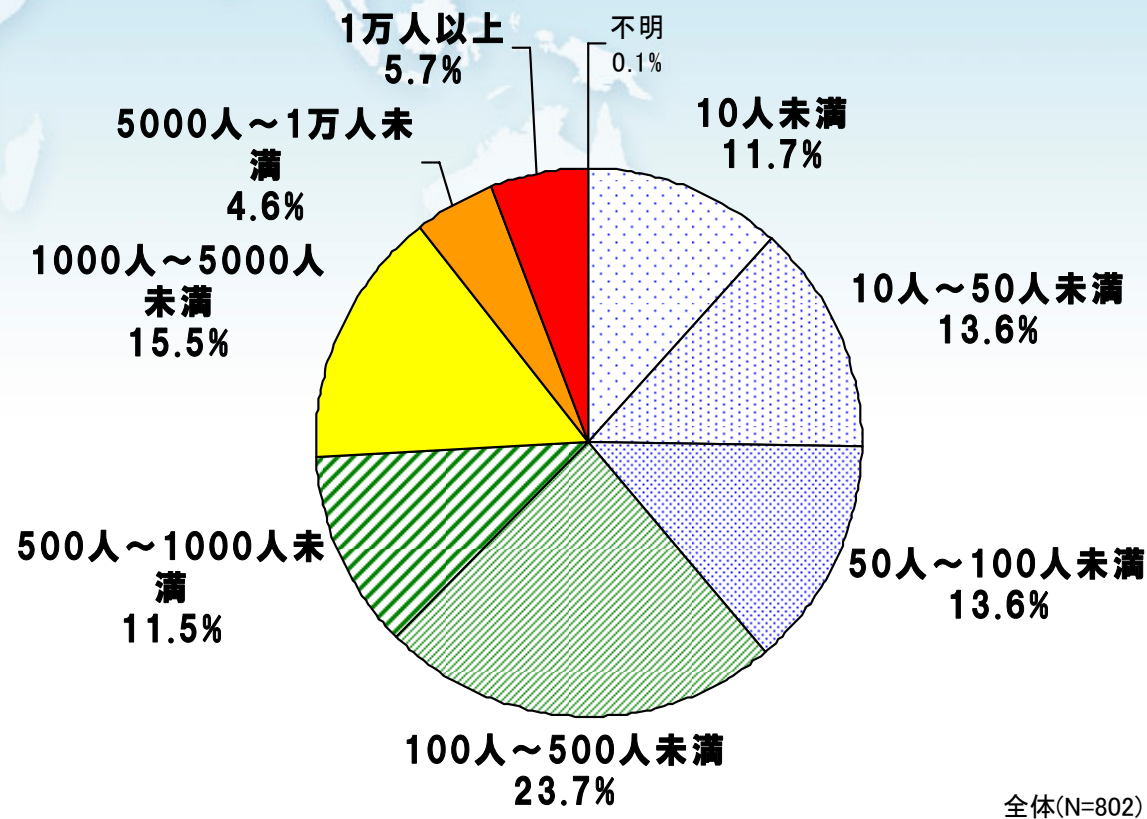
■ 全体の71%が、自社システムの導入決定～運用に関わっています。

•あなたはお勤め先の情報システムに、主にどのような立場でかかわっていますか？



- 100人未満の中小企業勤務者が39%、1000人未満の中堅企業勤務者が35%、1000人以上の大企業勤務者が26%です。

•お勤め先情報システムのユーザー規模を、1つだけお選びください。



全体(N=802)

Appendix

ASP・SaaSへの“期待”コメント全文

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はなんですか？（自由コメント）



■ コメント:業種:ユーザー数:ASP・SaaS利用状況

- ASPを利用することによる社内での開発、運用に関して工数を削減できる:SI/開発:100-499人:利用検討中
- ITの投資対効果が見えやすくなる:ITコンサル:1万人以上:利用検討中
- SaaSに関してはそもそも知識がないのでコメントできないが、ASPに関しては運用のみを考えればよい点、導入が早いのが最大のメリット:SI/開発:5000-9999人:現利用者
- コスト削減:ITコンサル:50-99人:現利用者
- システムが短期導入できること:IT製造(SW):500-999人:現利用者
- システムの早期導入やコスト軽減が計れる可能性があること:SI/開発:5000-9999人:利用検討中
- システムの負荷分散:IT製造(SW):10人未満:予定/検討なし
- システム運用管理工数が削減できること:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- システム開発・運用コストの削減:SI/開発:10人未満:予定/検討なし
- システム導入コストを低減すること:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- システム導入期間の短縮:その他IT関連:50-99人:利用予定者
- セキュリティ対策の向上:IT製造(HW):1000-4999人:予定/検討なし
- ランニングコストを抑えられる:SI/開発:10人未満:予定/検討なし
- 運用コストの削減:SI/開発:10人未満:現利用者
- 運用管理コストの低減だと思います。:SI/開発:5000-9999人:予定/検討なし
- 管理工数の削減:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 管理工数削減:製造業:1000-4999人:予定/検討なし
- 最新版の即時提供がなされるところ。:SI/開発:50-99人:現利用者
- 自社にノウハウがなくても、業務の開始ができる:SI/開発:10人未満:現利用者
- 短期導入:ITコンサル:10-49人:利用検討中
- 短納期・低コストで導入が行えること:ITコンサル:50-99人:予定/検討なし
- 導入コスト(時間と費用)の削減:SI/開発:100-499人:現利用者
- 導入コストの軽減:SI/開発:100-499人:予定/検討なし

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はな んですか？（つづき）



- 納期短縮:SI/開発:1000-4999人:利用検討中
- 必要な機能を必要な時に利用できることでの費用抑制効果:その他IT関連:500-999人:予定/検討なし
- 不要な資源配分を削減できる:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- 保守・運用コストの低減。:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- (ASP)少ない投資で、完全な商品を利用できる。:IT商社/流通:10-49人:現利用者
- (ベンダや製品にもよるが)SaaSの場合、Webリッチクライアント技術の活用によりブラウザだけで高い操作性を実現しているものが多く、場所を選ばず快適に業務を行える:SI/開発:500-999人:予定/検討なし
- (他社の導入が進むのであれば)デファクトスタンダードになり、横展開が容易になる:金融:100-499人:予定/検討なし
- 1)システムが短期導入できること 2)システム運用管理工数が削減できること:製造業:500-999人:現利用者
- 1. モバイル環境にも対応したサービス提供が受けやすい 2. 初期投資コストの削減 3. ソフト更新コストの削減:IT製造(HW):500-999人:予定/検討なし
- ASP・SaaSについての理解がないので回答が難しいが、あらゆる意味で現状以上のパフォーマンスを期待したい。:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- ASP・SaaSの意味が分からないのでどうとも言えない。:IT製造(SW):10-49人:予定/検討なし
- ASP・SaaSはあまり期待をしていない。:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- EAIやシステム間連携の標準化:IT商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- Easy implement, easy operation:製造業:100-499人:利用検討中
- EDI関連のASPで、会社間の接続をASPが面倒みてくれること。:建設/土木:1000-4999人:現利用者
- ERPに依存しない業務システムを構築できること。:SI/開発:500-999人:利用検討中
- SaaSとは何か分かりませんので、申し訳ありませんが、答えようがありません。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- SaaSについてほとんど認識できていない:教育機関:10人未満:予定/検討なし
- SaaSを知らないので、コメントできません。:SI/開発:1万人以上:予定/検討なし
- Thinクライアントのような機能が備わっていること。また、リモートでメンテナンスが出来ること:IT関連:10-49人:予定なし
- アウトソーシングによるコアビジネスへの注力が期待できる。:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- アクセスの柔軟性:IT商社/流通:10-49人:予定/検討なし
- インフラ整備の統合化:SI/開発:100-499人:予定/検討なし

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はなんですか？（つづき）



- エンドユーザーの技術レベルに合わせられる。:その他:10-49人:予定/検討なし
- エンドユーザの生産性向上とストレスフリー化。生産性向上に見合うコストならばペイできる:建設土木:50-99人:検討中
- カスタマイズ等を行う際の再配布の手間が削減できること:商社/流通:100-499人:現利用者
- クライアントのセキュリティ管理:通信:1000-4999人:予定/検討なし
- コスト:ITコンサル:500-999人:予定/検討なし
- コストが安い:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- コストダウンと運用管理工数の削減:製造業:50-99人:予定/検討なし
- コストと運用工数の削減:IT製造(SW):100-499人:現利用者
- コストの削減:教育機関:1000-4999人:利用検討中
- コストの削減が一番。:サービス業:10-49人:現利用者
- コストの削減です。:SI/開発:100-499人:現利用者
- コストの削減とユーザーの生産性向上:サービス業:10-49人:利用検討中
- コストの平準化:サービス業:100-499人:現利用者
- コストパフォーマンスに優れているということ。眼に見えて人件費(固定費)削減につながると思われる点:商社/流通:50-99人:予定/検討なし
- コスト効果の高いSaaSは、会社の動きに柔軟に対応することが可能で、かつシステムの変更(乗り換え)がさらに容易となる。また、ネットワークとシステムを一体化して捉えることが可能になり、その相乗効果によるコスト削減効果は無視できない。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- コスト削減:IT商社/流通:50-99人:予定/検討なし
- コスト削減:SI/開発:100-499人:現利用者
- コスト削減:その他IT関連:1万人以上:利用検討中
- コスト削減:商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- コスト削減:サービス業:100-499人:予定/検討なし
- コスト削減、バージョンUpによるデータ互換:ITコンサル:50-99人:現利用者
- コスト削減、業務の標準化、特殊業務への対応:商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- コスト削減。コアーに特化。:SI/開発:1000-4999人:現利用者

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はな んですか？（つづき）



- これから作成しようとしているサービスが、既に存在している場合には、サービスを呼び出すのみで完了する為、非常に作業効率が良くなると思います。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- サービスを受ける側と提供する側のコミュニケーション機会の増加:サービス業:10-49人:現利用者
- システムが外出しになることによる、運用工数の削減効果。:商社/流通:50-99人:利用検討中
- システムが短期導入できること:製造業:1000-4999人:利用検討中
- システムが短期導入できる。システム導入コストが削減できる。ユーザーインターフェース、規格の統一化が図れる。:その他IT関連:10-49人:現利用者
- システムに業務を合わせる必要はあるが、短期間で導入できること:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- システムのライフサイクルの短縮化:金融:1万人以上:利用検討中
- システムの短期構築:SI/開発:1000-4999人:現利用者
- システム導入コストの削減:通信:1000-4999人:予定/検討なし
- システムやソフトウェアを1から構築する手間を省くこと:その他IT関連:1万人以上:予定/検討なし
- システム運用に加え、業務自体もアウトソースできること。企業の競争力に影響しない業務について、標準化・他社の知見活用・コストダウンが見込まれるので:IT製造(SW):500-999人:現利用者
- システム運用のコスト削減:サービス業:500-999人:予定/検討なし
- システム運用管理工数が削減できること:SI/開発:500-999人:利用検討中
- システム運用工数の削減:製造業:1万人以上:予定/検討なし
- システム化していない企業がシステム化に進むことができること。:その他IT関連:100-499人:現利用者
- システム稼働率の向上 および コスト:その他IT関連:100-499人:利用予定者
- システム開発コストの削減:SI/開発:1000-4999人:現利用者
- システム管理者を企画にまわせる。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- システム間の連携を速やかにかつ柔軟に実現できること。:SI/開発:500-999人:予定/検討なし
- システム導入コストが削減できること:金融:1万人以上:現利用者
- システム導入コストが削減できること:官公庁/公共:100-499人:予定/検討なし
- システム導入コストが削減できること。OSやその他環境のバージョンアップに合わせて、システムを再検討する必要が少なく済むこと。:サービス業:10人未満:予定/検討なし

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はな んですか？（つづき）



- システム導入スピードと、システム運用コスト削減:製造業:1万人以上:利用検討中
- システム部門の運用管理負荷が軽減され、結果として、要員の効率的配置とシステムの安定運用による業務部門の生産性向上と信頼関係が構築できる。:商社/流通:500-999人:利用検討中
- システム連携とシンプルなシステム構造:製造業:10-49人:予定/検討なし
- すぐ使い始められる、いつでもやめられる:IT製造(SW):10-49人:利用検討中
- セキュリティの管理、サービスの均一性。:SI/開発:100-499人:利用検討中
- ソフトウェアの導入コスト低減:官公庁/公共:10-49人:現利用者
- データセンターのように可用性を持っていること:IT製造(HW):1万人以上:予定/検討なし
- テスト的に利用が可能なので、導入費用を抑える事が魅力的。また業務仕様に合わない場合には利用停止が可能なので、フットワークが軽くなるのも魅力的:教育機関:100-499人:利用検討中
- データの共有化:製造業:1000-4999人:利用検討中
- どこからでもデータを参照できること:SI/開発:10-49人:現利用者
- とにかく、ITインフラ整備のコストを抑えるのに効果的だと考える。:官公庁/公共:100-499人:現利用者
- どの環境でも使える:通信:500-999人:予定/検討なし
- ドメイン間でのアプリケーション連携:SI/開発:10-49人:予定/検討なし
- パッケージソフトを利用し、開発人件費の削減:製造業:100-499人:利用検討中
- パッケージ形式とスクラッチ形式の同居が容易になること。:その他IT関連:100-499人:利用検討中
- バラバラな状態を統一できる(かもしれない):SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- ビジネスの変化に迅速に対応できること。新しく会社を立ち上げる際に、特に有効:SI/開発:1000-4999人:予定なし
- ビジネスモデルの変化への敏速な対応と経費圧縮:官公庁/公共:5000-9999人:利用検討中
- ベストプラクティス(ベタープラクティス)が手に入ること。:通信:100-499人:現利用者
- メリットなし!逆にメンテ等々ややこしいだけ。地方都市ではなおさらメンテナンス部隊がきてくれない:~499人:予定なし
- メンテナンスコストの削減:建設/土木:50-99人:予定/検討なし
- モバイル/ユビキタスコンピューティング環境の実現:製造業:10-49人:利用検討中
- ユーザーの業務生産性/ユーザビリティの向上:ITコンサル:100-499人:予定/検討なし
- ユーザーの操作の簡単さ:ITコンサル:50-99人:現利用者

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はな んですか？（つづき）



- ユーザー環境の標準化(個別PCごとにソフトウェアをインストール、管理する必要がない)による運用工数の削減: 商社/流通:50-99人:予定/検討なし
- ユーザの生産性向上に寄与するカスタマイズ性:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- ユビキタスコンピューティング環境:SI/開発:10人未満:予定/検討なし
- よりデスクトップアプリケーションと同様の使い勝手が高まる事:SI/開発:50-99人:現利用者
- より詳細なカスタマイズが可能で運用コストが下がること。:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- レスポンスが高く業務にあった内容なので尚且つ、変更が自由:その他IT関連:10-49人:現利用者
- レスポンス向上:製造業:100-499人:予定/検討なし
- ローカルにデータやソフトウェアを残さない、セキュリティの向上:製造業:500-999人:現利用者
- 安定したサービスの提供:SI/開発:1万人以上:現利用者
- 安定したシステム稼働:SI/開発:1000-4999人:現利用者
- 一元化したデータベースから、必要な資料がいかようにでも取り出し加工できる:IT製造(SW):10人未満:利用検討中
- 運用/メンテナンスのコストを削減することができること。:IT製造(SW):10-49人:現利用者
- 運用コストが削減出来る:IT商社/流通:10-49人:予定/検討なし
- 運用におけるメンテナンス・従業員の作業負担量の削減。:サービス業:1000-4999人:予定/検討なし
- 運用管理コストの削減:その他IT関連:100-499人:現利用者
- 運用管理工数が削減できる点。:商社/流通:50-99人:予定/検討なし
- 運用管理工数の削減:製造業:100-499人:予定/検討なし
- 運用管理工数の削減、ユーザー業務工数の削減:製造業:100-499人:予定/検討なし
- 運用管理工数の削減とセキュリティ管理／危機管理:その他IT関連:100-499人:現利用者
- 運用管理作業のコストダウンに対して期待できると思う。:製造業:5000-9999人:予定/検討なし
- 運用負荷の減少(金・人・時間):その他IT関連:1000-4999人:予定/検討なし
- 運用面での人的コストの削減:商社/流通:50-99人:予定/検討なし
- 価格が高いが高機能である:その他IT関連:50-99人:予定/検討なし
- 開発コストの低下:教育機関:50-99人:利用検討中
- 開発の短期化と変更の容易化:SI/開発:1000-4999人:利用検討中

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はなんですか？（つづき）



- 開発や運用管理工数を削減し、コストを抑えること:SI/開発:500-999人:利用検討中
- 開発工数の軽減や品質の確保、収益の拡大。:その他IT関連:10-49人:予定/検討なし
- 外出先でも使用できる:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 各クライアントPCにインストールされているアプリケーションのバージョン管理:製造業:10-49人:利用検討中
- 管理・運用負担の軽減:教育機関:1000-4999人:予定/検討なし
- 管理が容易である。:製造業:100-499人:現利用者
- 管理の一元化:その他IT関連:50-99人:利用検討中
- 管理工数の削減:製造業:100-499人:現利用者
- 管理工数の削減:商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- 管理工数の削減(設置場所、人員など):SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 管理工数削減:IT製造(HW):500-999人:利用検討中
- 関係会社宛て経理財務系SystemのSaaS形式によるService提供:商社/流通:1万人以上:現利用者
- 既に実績のあるソフトを短期間で導入できること:サービス業:50-99人:現利用者
- 業務・プロセスの独立化、いいとこ取り:ITコンサル:1万人以上:利用検討中
- 業務の変化に柔軟に連携できること:製造業:100-499人:予定/検討なし
- 業務標準化:製造業:1000-4999人:利用検討中
- 経費の削減:サービス業:100-499人:利用検討中
- 経費削減:教育機関:100-499人:予定/検討なし
- 経費削減効果。:金融:10人未満:予定/検討なし
- 現在、クラサバ型をメインで開発を行っているため、Webアプリとして期待が高い:IT製造(SW):50-99人:利用検討中
- 現在ASP/SaaSの導入予定がないため、特にメリット・導入効果に期待はない:ITコンサル:10人未満:予定/検討なし
- 個々の管理業務が軽減されること:商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- 個別の端末について維持管理や保守・点検といった業務に直結しない作業が軽減されていること:IT製造(SW):10人未満:現利用者
- 顧客満足度の向上:#N/A:100-499人:利用検討中

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はな んですか？（つづき）



- 公開されたAPIを利用した柔軟なシステム構築。国産のAPIの無いPKG、サービスは検討対象外：ITコンサル：10人未満：現利用者
- 高額なソフトウェア資産を所有しなくて良いこと：SI/開発：1000-4999人：予定/検討なし
- 高品質で迅速に導入できる部品：その他：10-49人：現利用者
- 今後の機能拡張：IT製造(SW)：50-99人：利用予定者
- 仕様の統一による開発・管理工数の削減：製造業：50-99人：予定/検討なし
- 思いつきで何でも社内で開発する癖をなくせるように、それが当たり前になって欲しい：SI/開発：1万人以上：予定なし
- 自社でサーバを運用するコストとリスクの軽減。：SI/開発：10人未満：現利用者
- 自社での開発コスト、運用コストを削減し、サービスの利便性が向上すること。既存システムと連携し、利用できること：サービス業：100-499人：予定/検討なし
- 自社の独自文化ではなく、標準的なことで進むこと：SI/開発：5000-9999人：現利用者
- 自社開発の独自仕様のソフトウェアから移行する事で、標準化を進められ、開発を他社へアウトソーシングがしやすくなる事。：その他IT関連：50-99人：利用予定者
- 質の高いサービスが短期間で導入できること。：サービス業：10人未満：現利用者
- 社外でも安全なネットワークが確保できれば仕事ができること：製造業：50-99人：現利用者
- 社外も含めた情報共有：金融：100-499人：現利用者
- 社内・社外問わず安全に？利用できること：その他IT関連：100-499人：現利用者
- 社内で黙示的に用いられている用語や概念が整理されること：SI/開発：500-999人：利用検討中
- 社内の人的資源の有効活用に利用できる：その他IT関連：50-99人：利用検討中
- 社内管理コストを抑えられる？：建設/土木：10-49人：予定/検討なし
- 手軽、お試しという感じ：サービス業：100-499人：予定/検討なし
- 柔軟なライセンス管理と機能バージョンアップ。：サービス業：100-499人：現利用者
- 初期コストの安さ、トラブル対応時の工数削減：金融：1万人以上：現利用者
- 初期費用が安い。最新の環境を利用できる。：サービス業：100-499人：現利用者
- 小～中規模の企業において、費用対効果がでること。：ITコンサル：10-49人：#N/A
- 小さく初めて、効果を確認しながら拡大できること。ハード/ソフトを所有することの負担を無くして、サービスを利用して企業価値を向上させることに専念できる。：製造業：5000-9999人：利用検討中

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はなんですか？（つづき）



- 小回りの効く情報システムの構築(切り貼りが自由にできる)。運用・メンテナンス費用/工数の削減:SI:-9999人:現利用
- 情報システム部門のスリム化:SI/開発:50-99人:利用検討中
- 職員の規模が縮小している中で、サービスレベルを落とすことなくサービスの提供を継続できる可能性をもっていること。:官公庁/公共:5000-9999人:予定/検討なし
- 人員削減:商社/流通:100-499人:現利用者
- 人件費を含めたコスト削減:官公庁/公共:5000-9999人:現利用者
- 人材も派遣が多数しめているように、ソフトも必要なときに確保して利用可能な柔軟なIT戦略が策定可能であること:ITコンサル:1万人以上:予定/検討なし
- 全部任せて本来の業務に集中できること。:サービス業:10人未満:現利用者
- 総合的なコスト削減:通信:50-99人:利用検討中
- 他部署の要求を飲んだ煩雑な独自設定を排して、標準化できること:ITコンサル:50-99人:予定/検討なし
- 対応の早さ:IT製造(SW):100-499人:利用検討中
- 誰でも手軽にインターネットサービスが行えること。管理・保守が不要なこと。社内業務の単一化:IT流通:-99人:予定なし
- 短期、低コストで導入が可能な事:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 短期構築、コスト削減、サーバ機器管理が不要。:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 短期導入が可能:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 短期導入と導入や運用のコストが安いこと:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 短納期、小コスト:通信:1000-4999人:現利用者
- 端末毎にインストールしなければならなかったアプリケーションや設定などがいらなくなる。ブラウザ1つで必要なアプリを利用できること。:SI/開発:10-49人:予定/検討なし
- 提供する立場として答えるならば、やはりメンテナンスや運用の工数を減らせることだろう。:SI/開発:5000-9999人:利用検討中
- 当社の場合、情報システム部門が社内管理だけでなく、IT系の業務まで担当しているため、システム運用管理工数の削減が最大のメリットとなる。:建設/土木:500-999人:利用検討中
- 導入・運用コストの削減:SI/開発:100-499人:予定/検討なし

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はな んですか？（つづき）



- 導入および運用コストが削減されること。:SI/開発:5000-9999人:利用検討中
- 導入がスムーズに行えることは非常に期待している。後はコストをどれだけ削減できるかが、現状との比較になると思う。:SI/開発:10人未満:利用検討中
- 導入コスト、管理コスト(特に維持コスト):サービス業:50-99人:予定/検討なし
- 導入コストがかなり抑えられること:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 導入コストがほとんど発生しないこと。:IT製造(SW):50-99人:利用検討中
- 導入コストが抑えられ、必要なものを無駄なく導入できる。:製造業:500-999人:予定/検討なし
- 導入コストと運用コスト(システムメンテ):SI/開発:10-49人:予定/検討なし
- 導入コストと運用コストの削減:SI/開発:500-999人:予定/検討なし
- 導入コストの削減:製造業:100-499人:現利用者
- 導入と管理コストの削減:SI/開発:10-49人:利用検討中
- 導入による業務の定型化:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- 導入のスピードアップ:SI/開発:1000-4999人:現利用者
- 導入の容易さ:SI/開発:500-999人:利用検討中
- 導入までのスピード:SI/開発:1000-4999人:利用検討中
- 導入期間が短期間ですみ、仕事がグローバル化する事:製造業:100-499人:予定/検討なし
- 導入効果よりも今はまだ懸念の方が大きい。:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 導入工数、運用工数削減による稼働の削減:IT製造(SW):10人未満:利用予定者
- 導入時コストダウン&バージョンUP時のメンテナンスコストダウン:製造業:1万人以上:予定/検討なし
- 導入時のコスト、ワークロードの削減:その他IT関連:50-99人:予定/検討なし
- 導入時のコスト削減:製造業:1万人以上:利用検討中
- 導入費用の軽減:IT製造(SW):50-99人:予定/検討なし
- 内外の社員間の情報交換の効率化:製造業:1000-4999人:利用検討中
- 莫大な運用維持費用を削減できること:金融:100-499人:予定/検討なし
- 比較的環境を選ばずシステムが利用できること:その他IT関連:10人未満:利用検討中

あなたが今後ASP・SaaSに期待する最大のメリット／導入効果はなんですか？（つづき）



- 費用対効果がよくなった:SI/開発:100-499人:利用予定者
- 必要最小限の導入が可能になること。:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- 標準化:SI/開発:10-49人:現利用者
- 標準化:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 標準化により社内外のシステムが連携しやすくなること:製造業:50-99人:利用検討中
- 標準化により様々なサービスの中から自社に最適なものを選ぶことができるようになる:ITコンサル:10人未満:検討中
- 標準化の推進が可能になり、他拠点展開が容易になること:その他IT関連:100-499人:利用検討中
- 標準化の対応:IT製造(SW):10-49人:予定/検討なし
- 表計算ソフト等がインストールされていないPCでもインターネットで使用できること:サービス業:10人未満:予定なし
- 複雑にならない仕様:通信:500-999人:予定/検討なし
- 複数のアプリケーションを統合できるプラットフォームの提供:SI/開発:100-499人:現利用者
- 変化に対する迅速な対応ができそうなことだと考えています。:製造業:1000-4999人:予定/検討なし
- 保守運用の外部化による、コスト削減や安定化:ITコンサル:100-499人:予定/検討なし
- 保守管理がアウトソーシングで、費用削減になる。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 保守工数・コストの削減。:ITコンサル:1000-4999人:利用予定者
- 保守性:SI/開発:500-999人:予定/検討なし
- 保守要員が不要になること。:製造業:10-49人:予定/検討なし
- 本業以外の業務のアウトソーシング:SI/開発:100-499人:利用検討中
- 無謀なコストを一か八かでかける必要がないこと:SI/開発:500-999人:利用検討中
- 管理工数の削減:SI/開発:10人未満:予定/検討なし
- 利用者側ではなくて、再販側として今まで費用面や管理面で導入できなかった顧客に対して商品を再度訴求できる:SI/開発:100-499人:利用予定者
- 立ち上げが容易。また運用管理コストが無くなる点。:IT製造(HW):50-99人:現利用者

Appendix

ASP・SaaSへの“懸念”コメント全文

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



■ コメント:業種:ユーザー数:ASP・SaaS利用状況

- (ASP)回線使用時のセキュリティ対策:IT商社/流通:10-49人:現利用者
- APP間連携:#N/A:100-499人:利用検討中
- ASP・SaaS自体がぼんやりしている。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- ASP・SaaSがなにものか良くわかっていない:製造業:500-999人:予定/検討なし
- ASP・SaaSに関する内容を理解していないため、回答できない。:SI/開発:10-49人:予定/検討なし
- ASP・SaaSの意味が分からないのでどうとも言えない。:IT製造(SW):10-49人:予定/検討なし
- ASPはカスタマイズが大変であることと、他のシステムとの連携:SI/開発:5000-9999人:現利用者
- EDI関連の複数のASP業者で、運用・実装ポリシーに差異があること。:建設/土木:1000-4999人:現利用者
- How to match with private business model:製造業:100-499人:利用検討中
- ISMSやPマークを取得しているので、セキュリティの検討で大抵ボツになる:ITコンサル:500-999人:予定/検討なし
- isms的には、セキュリティリスクの増大が考えられる。:SI/開発:100-499人:利用予定者
- Net接続速度:サービス業:10人未満:予定/検討なし
- SaaSとは何か分かりませんので、申し訳ありませんが、答えようがありません。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- SaaS間の連携がまだ未成熟:SI/開発:1000-4999人:現利用者
- Security:商社/流通:1万人以上:現利用者
- アウトソーサに社内機密を委託するリスク。できれば社内で保持したいが、コスト的に難しい:建設土木:-99人:検討中
- アウトソーシングによるセキュリティ面の問題が懸念される。:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- いろんな意味での信頼性が期待できるのかどうか:SI/開発:500-999人:利用検討中
- いわゆる業界のトレンドという理由で金儲けの手段に堕すること。:通信:1万人以上:現利用者
- うまく動いている間は良いが、問題発生やカスタマイズの必要が生じた時によりコストがかかってしまうのではないかと感じる:その他IT関連:1000-4999人:予定/検討なし
- オフラインに対応できないこと:IT商社/流通:10-49人:予定/検討なし

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- カスタマイズがしづらい:IT製造(HW):100-499人:現利用者
- カスタマイズの自由度。今使用している社内システムが現状とあっていないため:SI/開発:500-999人:予定/検討なし
- カスタマイズの自由度が低い:製造業:100-499人:予定/検討なし
- カスタマイズの自由度が低い:商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- カスタマイズの自由度が低いだろうと思われること。:サービス業:100-499人:予定/検討なし
- カスタマイズへの対応:製造業:50-99人:予定/検討なし
- クラスの多さや複雑性:その他IT関連:10-49人:現利用者
- コスト:製造業:100-499人:予定/検討なし
- コスト:金融:50-99人:利用検討中
- コスト、システム運用負荷:ITコンサル:50-99人:現利用者
- コスト、セキュリティ:SI/開発:500-999人:利用検討中
- コストや利用スキル、有効活用ノウハウ:教育機関:10人未満:予定/検討なし
- コストや利用時の教育:教育機関:10人未満:予定/検討なし
- サーバーにトラブルが起きた時の影響が大きい:官公庁/公共:10-49人:現利用者
- サーバー及びネットワークの信頼性。:IT製造(SW):10-49人:利用検討中
- サーバクラッシュやネットワークのトラブル。特に災害時の復旧が問題と考えている:その他:10人未満:予定/検討なし
- サービス・事業者選定が難しい。:その他IT関連:100-499人:利用予定者
- サービスとしての成熟度が低い:その他IT関連:50-99人:利用予定者
- サービスの安定稼働・信頼性:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- サービスの継続:SI/開発:100-499人:利用検討中
- サービスの継続性:SI/開発:10-49人:現利用者
- サービスの継続性:その他IT関連:100-499人:現利用者
- サービスの信頼性をどこまで確保できるか、自社業務にどれくらいすり合わせができるか:商社/流通:50-99人:予定なし

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- サービスレベルの定義と維持:SI/開発:500-999人:利用検討中
- サービスを外部へ提供するので、今まで以上にセキュリティや完成度の高いものが要求される為、中途半端な技術者を集めて開発するのは危険だと感じます。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- サービスを将来に渡って受けられる保証がない。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- サービス内容と自社業務との連携における調和・整合性の確保:官公庁/公共:5000-9999人:利用検討中
- システムダウンしたとき、取引の機会損失をどこまで保証してくれるのか？契約書に書かれています、程度のフォローでは業務システムは委託できない。:その他:10-49人:現利用者
- システムに係わるベンダーの増加にともなうセキュリティリスク。開発～運用まで外部委託となる懸念、ユーザ側IT要員の過疎化。:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- システムのレスポンス、セキュリティ。:商社/流通:50-99人:利用検討中
- システム移行時のユーザーの反発:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- システム間の連携が弱いこと:その他IT関連:100-499人:現利用者
- スキル不足:医療機関:50-99人:予定/検討なし
- スクラッチ開発での基幹システムの連携が難しい。基幹システムが古い為:IT製造(SW):100-499人:現利用者
- セキュリティ:IT商社/流通:10-49人:予定/検討なし
- セキュリティ:商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- セキュリティ:官公庁/公共:5000-9999人:現利用者
- セキュリティ:サービス業:100-499人:利用検討中
- セキュリティ(回線、認証、サービス提供者側からの漏洩):IT製造(SW):10人未満:利用予定者
- セキュリティ, 情報漏えい:IT製造(HW):1万人以上:予定/検討なし
- セキュリティ、パフォーマンス、:ITコンサル:1万人以上:利用検討中
- セキュリティが高価:IT製造(SW):100-499人:利用検討中
- セキュリティの確保:SI/開発:100-499人:予定/検討なし

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- セキュリティの管理、サービス事業者の選定。:SI/開発:100-499人:利用検討中
- セキュリティの問題:製造業:1万人以上:予定/検討なし
- セキュリティリスク:その他IT関連:1万人以上:利用検討中
- セキュリティリスク:製造業:1000-4999人:予定/検討なし
- セキュリティリスクの上昇:SI/開発:10人未満:予定/検討なし
- セキュリティ被害(情報漏えいなど):SI/開発:10人未満:利用検討中
- セキュリティ面での信頼性。社内機密情報を預けて本当に問題ないか、ギャランティーの部分も含めて懸念している。:その他IT関連:10-49人:現利用者
- データの管理が心配。確実に信頼できるものを導入する必要がある。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- データ保全の信頼性:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- できること、できないことの境界線があいまい:SI/開発:10人未満:現利用者
- どの程度、コストの削減とユーザーの生産性向上になるか現段階では見えずらい:サービス業:10-49人:利用検討中
- なかなか良いベンダーが見つからない:商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- ネットワーク必須であること。必要に応じてオンライン/オフラインを切り替えて使えること:IT製造(SW):10人未満:利用者
- ネットワークインフラの事故によって、すべての業務がストップすること。また、ASP側のデータに関する安全性が心配:その他IT関連:100-499人:利用検討中
- ネットワークがひ弱(ADSL環境のみ)なので、対応が困難:商社/流通:50-99人:予定/検討なし
- ネットワークトラフィックの安定。:官公庁/公共:100-499人:現利用者
- ネットワークトラブルによる業務停止:製造業:50-99人:予定/検討なし
- ネットワークのコストが高い:製造業:1000-4999人:予定/検討なし
- ネットワークのレスポンス:通信:1000-4999人:予定/検討なし
- ネットワークの環境が非常に悪い所に本社があり、各拠点との環境格差によるレスポンス低下・遅延実際、基幹システムを導入する際、「光回線が通る見込みがない」事を理由に新規システムを導入出来なかった経緯がある:製造業:500-999人:予定/検討なし

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- ネットワーク経路のためネットワークのスピードに依存すること。:サービス業:100-499人:現利用者
- ネットワーク経路時のレスポンスの低下.自由度の低下:サービス業:100-499人:予定/検討なし
- ネットワーク障害による業務停止とネットワークコスト対効果比較。社内技術力の低下:製造業:1万人以上:利用検討中
- ネットワーク障害等で簡単に全社が麻痺してしまう。:その他:1000-4999人:現利用者
- パスワードのセキュリティ維持方法(8桁以上で、毎月変更は運用に耐えられない):SI/開発:500-999人:予定/検討なし
- バックアップ体制:その他IT関連:1000-4999人:利用検討中
- ビジネスプロセスとの同期、サービスのVer.UPおよび開発環境の同期のタイムラグ:サービス業:10-49人:現利用者
- ビジネス環境の変化に迅速に対応できない。:SI/開発:5000-9999人:利用検討中
- プロバイダが顧客情報等の機密情報を完全に保護しきれないかが不安である:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- ベンダによる囲い込みにより自社に最適なサービスを組み合わせられなくなる。:ITコンサル:10人未満:利用検討中
- ホストとの連携:商社/流通:1000-4999人:予定/検討なし
- まだまだ情報が少ないことです。:製造業:1000-4999人:予定/検討なし
- まだ具体的な内容が十分把握できてない点:製造業:1000-4999人:予定/検討なし
- まだ実例(成功例)が少ないと感じる。:金融:100-499人:予定/検討なし
- まだ熟成しきっていない印象を持つ:通信:50-99人:利用検討中
- マルチテナント(サーバ共有)環境での安定性/稼働率の低下:官公庁/公共:100-499人:予定/検討なし
- メリットとのトレードオフだが、セキュリティに関する懸念:ITコンサル:100-499人:予定/検討なし
- やはり、セキュリティとサービス・レベル。:製造業:5000-9999人:利用検討中
- ユーザーの操作の簡単さ:ITコンサル:50-99人:現利用者
- ユーザー主体で開発を進めているため、かなりのカスタマイズを必要としますが、これらのサービスでは不十分であり、仮に出来たとしても膨大な時間と費用がかかるような気がします:製造業:100-499人:予定/検討なし
- よほどPCに詳しくなければASP・SaaSのことをまったく知らないこと!なので話になりません:サービス業:10人未満:予定なし
- より良いサービスが出現した場合にであっても、乗り換えが難しい場合がある:SI/開発:10人未満:予定/検討なし

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- ランニングコストがかかりそう。またその費用が事前に掌握しにくそう。:その他IT関連:500-999人:予定/検討なし
- ランニングコストと教育:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- ランニングコストの増加 運用費がとても大変:SI/開発:1000-4999人:利用検討中
- ランニング価格上昇と特定ベンダーとの癒着に懸念する:商社/流通:50-99人:予定/検討なし
- レスポンス、セキュリティ:製造業:1000-4999人:利用検討中
- レスポンスが安定していないのではないか?:通信:1000-4999人:予定/検討なし
- レスポンス問題:SI/開発:10人未満:利用検討中
- 囲い込み:SI/開発:10-49人:予定/検討なし
- 囲い込み、最新サービスやシステム革新から隔離される懸念:製造業:500-999人:現利用者
- 委託先の業務の連続性:製造業:10-49人:予定/検討なし
- 一時的にでも機密データを外部に委託するセキュリティリスク:その他IT関連:10人未満:利用検討中
- 運用・メンテナンスを一任できること。:SI/開発:5000-9999人:利用検討中
- 運用コストの増加:建設/土木:50-99人:予定/検討なし
- 応答性能(使い物になるのか否か):SI/開発:1000-4999人:利用検討中
- 価格:建設/土木:10人未満:予定/検討なし
- 価格・維持管理・スキルの向上:製造業:1000-4999人:利用検討中
- 可用性と信頼性:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- 画一的なサービスであることから、カスタマイズ等の自由度が極端に制限され、結果として業務部門が使いにくいシステムになり、最悪は使用されず、元に戻る懸念がある。:商社/流通:500-999人:利用検討中
- 回線トラブル、スピード:SI/開発:100-499人:利用予定者
- 開発・運用実績の調査:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 開発技術の高難易度化保守コストの増大:SI/開発:50-99人:予定/検討なし

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- 外部経費の増大:SI/開発:10-49人:予定/検討なし
- 各ソフトのデータ連携。ランニングコスト。:製造業:100-499人:予定/検討なし
- 環境によってユーザビリティが左右されやすい:製造業:100-499人:現利用者
- 管理が容易か:SI/開発:10-49人:利用検討中
- 基幹・情報のどちらで利用するにしても、社外からアクセスする必要に迫られた場合のセキュリティ対策基盤となる技術そのものの脆弱性が未だ看過できるレベルではない:商社/流通:100-499人:現利用者
- 基幹業務の場合ネットワーク停止によって業務が止まってしまう恐れがある:教育機関:1000-4999人:予定/検討なし
- 既存アプリケーションとの連携に対する難易度:製造業:100-499人:予定/検討なし
- 既存システム・データの継承:製造業:1000-4999人:利用検討中
- 既存システムからの移行、または自社製システムへの移行を行う際、データ移行をどうするのか:SI:-4999人:予定なし
- 既存システムからの移行がスムーズかどうか?:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 既存システムとのデータ連携:金融:100-499人:予定/検討なし
- 既存システムとの連携や特定業務に対応できるようにカスタマイズすることが容易かどうか:IT関連:10-49人:予定なし
- 既存システムを流用できない:SI/開発:10人未満:予定/検討なし
- 既存との連携が難しいことです。:SI/開発:100-499人:現利用者
- 既存のアプリケーションとの連携がスムーズに行くかどうか:SI/開発:500-999人:利用検討中
- 既存の社内アプリケーションとの連携。:製造業:100-499人:利用検討中
- 既存の社内アプリケーションとの連携が難しい:SI/開発:500-999人:利用検討中
- 既存の社内アプリケーションとの連携が難しい:金融:1万人以上:現利用者
- 既存の社内アプリケーションとの連携の難しさ:製造業:1000-4999人:利用検討中
- 既存の所有システム及びそのシステムありきの業務からの脱却:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 既存業務体系との連携:SI/開発:10-49人:予定/検討なし

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- 機能の自由度が低いこと、統一感のある運用の欠如:サービス業:50-99人:現利用者
- 機密性の確保とメンテ:サービス業:10人未満:予定/検討なし
- 業者与信:IT製造(SW):10-49人:利用検討中
- 業務システムの大幅な変更が伴うことによる一時経費と、運用コストの増加:官公庁/公共:5000-9999人:予定なし
- 業務データなどの情報漏えい:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 業務データのセキュリティリスク、ライバル企業への情報漏えい懸念:IT製造(HW):500-999人:予定/検討なし
- 業務データの社外委託によるセキュリティリスク:製造業:1000-4999人:予定/検討なし
- 業務に関わる重要な情報を社外に置くことによるリスク。:IT製造(SW):10-49人:現利用者
- 業務を理解して提案できるベンダーがない:商社/流通:1000-4999人:予定/検討なし
- 継続性とシステム移行時の自由度:IT製造(SW):10人未満:予定/検討なし
- 決済者の理解でしょう:その他:100-499人:予定/検討なし
- 結局はカスタマイズの要望が出る:サービス業:100-499人:予定/検討なし
- 見えないコスト(カスタマイズ、ユーザ教育など)が壁になって、囲い込まれてしまうこと:ITコンサル:1万人以上:検討中
- 現在、テレビ会議システムで他社提供のASP型を利用しているが、ネットワーク負荷による音声の途切れなどが気になる。やはり、音声系サービスにて最も懸念しているのは、ネットワーク負荷であろう:SI/開発:5000-9999人:利用検討中
- 現行システムとの連携:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 現在つかっているシステムとの連携:その他IT関連:50-99人:利用検討中
- 現在運用中のシステムからの移行コストが高く感じる。:その他IT関連:50-99人:利用予定者
- 現存システムが古すぎる為、対応することに多大なコストを要する:製造業:1万人以上:利用検討中
- 言葉が先行している。実際に価値あるものが提供されることが重要。:SI/開発:500-999人:予定/検討なし
- 個人情報扱う場合のセキュリティリスク:その他IT関連:1万人以上:予定/検討なし
- 個人情報系の流出リスク:SI/開発:5000-9999人:利用検討中
- 顧客データ管理:SI/開発:1万人以上:現利用者

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- 国産のASP・SaaSはAPIレベルのマッシュアップに対応していない。特にMIJS製品(基幹系):ITコンサル:10人未満:現利用者
- 今現在、企業で使われる業務用アプリケーションはベンダ型と言われる専用アプリケーションが主流となっており、SaaSの特徴となる既存のサーバー、あるいはクライアントのアプリケーションをデータセンター経由で提供するというサービスは過去に失敗したと思っても過言では無い様な気がするし、実際、今更、そのようなサービスを始めて、裾野を広げて行けるのか、疑問。ASPが公開された時は、IT関係の世界では一世風靡されたような扱いだったのが最近はこのASP自体、どこで使われているのか聞いたタメシが無く、このような実情からSaaSも前評判ばかりが目立ち行く行くは尻すぼみの形で消え行く運命なのではないかと言うのが現在の考えであり、方針でもある:建設/土木:10-49人:予定/検討なし
- 最大公約数的な機能に留まり、使い勝手が向上しにくい事:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 財務的な処理をアウトソーシングするには、それなりの信頼と実績があるところ以外は任せられない:商社/流通:50-99人:予定/検討なし
- 市場規模と認知度:SI/開発:50-99人:現利用者
- 事業継続性をどの様にするか?:IT商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- 自社ソフトとの連携:サービス業:500-999人:予定/検討なし
- 自社にあわせたカスタマイズ:その他IT関連:50-99人:予定/検討なし
- 自社の規模にあったものがなかなか無い事:製造業:100-499人:予定/検討なし
- 自社業務に向けたカスタマイズの自由度が低い、もしくはカスタマイズ費用が高い懸念:商社/流通:50-99人:予定なし
- 自社業務に合わせたカスタマイズ:製造業:10-49人:利用検討中
- 自社業務に合わせたカスタマイズの自由度が低い、他社と横並びになってしまう:SI/開発:100-499人:予定なし
- 自社業務に適したものがない、費用が高い:商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- 自社業務の特殊な部分(独自業務)をどこまでシステム化でき、それが実際に利用する社内ユーザにどこまで受け入れられるか懸念されます。システム切換えによって業務が停滞する期間をできる限り短くする必要があると思われるため、その対策まで検討する必要があります。:建設/土木:50-99人:予定/検討なし
- 自由なカスタマイズができない。制限される。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- 実現性や安定性への影響。導入の成功事例をまだ耳にしたことがない:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 社員の経験不足。偏見。業務に関する保守的な考え方。:サービス業:10人未満:予定/検討なし
- 社外ネットワークとは年々トラフィックが増大していて、また新たに社外ネットワークとのパスを作るのは懸念がある:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 社外の都合でサービス自体が止まってしまうリスク:製造業:50-99人:現利用者
- 社外委託によるセキュリティリスクの上昇:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 社内でSaaSに対する認識が極めて薄く、経営層や情報システム部門で検討すらされない:SI:500-999人:予定なし
- 社内でのスキル、ノウハウの蓄積ができなくなること:SI/開発:100-499人:利用検討中
- 社内の認知度が低い:製造業:100-499人:予定/検討なし
- 社内の能力の空洞化:ITコンサル:50-99人:現利用者
- 社内業務システムとどう連携させるか?:製造業:10人未満:予定/検討なし
- 社内周知と教育:製造業:10-49人:利用検討中
- 初期導入費用。:金融:10人未満:予定/検討なし
- 商品の品揃えが少ない。:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 障害や電波状況が悪いなど、インターネットに接続できない場合に業務が止まる:SI/開発:1000-4999人:予定なし
- 上が理解を示さない。説明、説得することが難しい。新しい概念はそれが当たり前にならないと使ってもらえない。漠然とした否定的な意見を打ち消す事ができない。:SI/開発:1万人以上:予定/検討なし
- 乗り換えコスト(習熟度含め)→使い始めたら他に変更できない:IT製造(HW):50-99人:現利用者
- 乗り換えコストが心配。実質的な囲い込みになるのではないか。最大のメリットを潰してしまうような結果にならないか。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 情報セキュリティの信頼性:金融:100-499人:現利用者
- 情報セキュリティ管理:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- 情報資産の流出リスクが懸念される。:SI/開発:50-99人:利用検討中

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- 情報漏れなど:製造業:1万人以上:予定/検討なし
- 情報漏洩:通信:1000-4999人:現利用者
- 情報漏洩:官公庁/公共:1万人以上:予定/検討なし
- 情報漏洩などのセキュリティリスク。:サービス業:10人未満:現利用者
- 色々な意味で自由度が低いこと:その他IT関連:100-499人:現利用者
- 信頼できるサービス/事業者の選択が難しい:サービス業:50-99人:予定/検討なし
- 信頼できるサービスか否かをどのように見極めるか:その他:10-49人:現利用者
- 信頼できるサービスの選択:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 信頼性(セキュリティや運用面):SI/開発:1000-4999人:現利用者
- 信頼性の高い会社がまだ無い:通信:500-999人:予定/検討なし
- 新規システムに乗り換えることがあった場合、社内に詳しい人間がいない:ITコンサル:50-99人:予定/検討なし
- 人(営業、開発SE、運用SE)。:ITコンサル:10-49人:#N/A
- 性能が気になります。:SI/開発:5000-9999人:予定/検討なし
- 正直なところ、ASP・SaaSについてあまり知識がないため、無回答とさせていただきます:SI/開発:100-499人:予定なし
- 選択が難しい:建設/土木:50-99人:予定/検討なし
- 選択の難しさ:SI/開発:50-99人:利用検討中
- 他システムとの連携が難しい:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 他の社内システムとの連携:ITコンサル:50-99人:予定/検討なし
- 多数のパッケージとのカスタマイズなしで、データ連携できるサービスの提供:その他IT関連:10-49人:予定なし
- 大容量の顧客情報をインターネット経由で外部に出すこと、既存の基幹システムとの連携の難しさ:金融:1万人以上:現利用者
- 地方に拠点のある企業では潤沢な通信帯域を確保しにくい。自社内情報システム部門の技術力低下:IT製造(HW):500-999人:予定なし

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- 中身、機能ですね。何ができるのか、何ができないのか。それで、いくら(料金)なのか:SI/開発:10人未満:予定なし
- 中長期的に安定してサービスが提供されるのかどうか。:SI/開発:10-49人:予定/検討なし
- 長期に渡り安定したサービスを提供できるかどうか:SI/開発:1000-4999人:現利用者
- 長期に利用した場合は割高となる。外部委託による情報漏洩のリスクが高まる。ユーザに合わせたカスタマイズが難しい。(ユーザ側の要求が曖昧な場合もある)自社システムや他社製品との連携が難しく、全体的に手を加える必要がある。:サービス業:100-499人:予定/検討なし
- 長期的にサービスの提供が可能で費用面でも安価な事業者の選定が非常に難しい:建設/土木:500-999人:検討中
- 長期利用時のランニングコストの増加:商社/流通:10-49人:予定/検討なし
- 長期利用時のランニングコストの増加。:IT製造(SW):500-999人:現利用者
- 通信障害とその対応、対策に必要なコスト:製造業:100-499人:予定/検討なし
- 通信断絶時に業務が停止する可能性。:SI/開発:10人未満:現利用者
- 当社のシステムとうまく連携できるか?:IT製造(SW):10人未満:利用検討中
- 当社は、極めて高いセキュリティ面を求めているため、難しい。:製造業:5000-9999人:予定/検討なし
- 導入コスト、セキュリティー管理:建設/土木:10-49人:予定/検討なし
- 導入におけるリスク。やはりリスクが多いと感じています。:サービス業:1000-4999人:予定/検討なし
- 導入価格と既存システムとのデータ互換:製造業:10-49人:予定/検討なし
- 導入後に柔軟に業務が変化できるかどうかに対する懸念を感じる。変化しないような業務に対して検討する必要は感じている。:SI/開発:10人未満:利用検討中
- 導入時に、メンテナンスを行うものやそれを代行してくれる業者を選択せねばならず、その情報が少ないこと:ITコンサル:10人未満:予定なし
- 導入費用対効果:ITコンサル:10人未満:予定/検討なし
- 特定ベンダによる囲い込み／乗り換えコストの上昇:製造業:500-999人:現利用者
- 特定ベンダによる囲い込み。いたずらにセミナー・研修を受けさせて、専任担当者を置かせようとする。マニュアル・仕様を公開しない。:サービス業:100-499人:現利用者

あなたがASP・SaaS利用に感じる最大の課題／懸念事項はなんですか？(自由コメント)



- 特定ベンダへのロックインが一番の懸念事項:SI/開発:10-49人:予定/検討なし
- 独自仕様のカスタマイズや機能の有無、レスポンス性能:SI/開発:10人未満:予定/検討なし
- 日本になじまない:SI/開発:500-999人:予定/検討なし
- 認知度がまだ高いとはいえない:ITコンサル:100-499人:予定/検討なし
- 汎用性がない:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 費用:IT製造(HW):10人未満:予定/検討なし
- 費用対効果が明確に計算できない:製造業:1000-4999人:予定/検討なし
- 必要なサービスを提供しているベンダーを見つけることが困難:ITコンサル:1万人以上:予定/検討なし
- 標準的な物が多い反面、自社特有とする処理部分の実現が難しい。その部分にコストがかかってしまうケースも考えられる。:その他IT関連:100-499人:予定/検討なし
- 品質:SI/開発:1000-4999人:現利用者
- 腐っている社内システムを完全に償却するために、除却損を計上しなければならず、それを経営上判断できるかどうか:金融:1万人以上:利用検討中
- 部署ごとに別のものを導入して、統合に手間取る:SI/開発:5000-9999人:現利用者
- 複数のASP・SaaSと社内個別仕様のアプリケーションとの連携:SI/開発:50-99人:現利用者
- 複数のSaaSを組み合わせたときの管理の問題:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- 弊社では、ネットワークが弱いので、再構築が必要。:サービス業:50-99人:予定/検討なし
- 利用したいときに、システムダウンまたはネットワーク障害で利用できないときが発生しないか?:IT製造(SW):50-99人:利用検討中
- 流行に踊らされずに、自社のビジネスモデルに必要な仕組みを導入すること。:SI/開発:1000-4999人:現利用者
- 連携させるための開発や、他のASP・SaaSへの乗り換えコストが高くついたりして、結果的にコスト高になってしまいうこと:通信:100-499人:現利用者

Appendix

MIJS版SaaSへのご意見

上記サービスコンセプトやMIJSへのご意見／ご要望があれば、具体的にお聞かせください。(自由コメント／MIJS版SaaSへの興味度別)



「とても興味がある」(コメント:業種:ユーザー数:ASP・SaaS利用状況)

- MIJSということで、期待している。:SI/開発:500-999人:利用検討中
- いつも、新しいモノは、現場のエンジニアは興味を示しても、SE・PM、それ以上が全く興味を示さないので、導入することが困難です。それを乗り越えていける素晴らしいプレゼンを期待します:SI/開発:1万人以上:予定なし
- ご存知のように、国産ソフトウェアは惨憺たる状況である。ベンダーさんたちは、このような現状を直視し、大いに反省するとともに、今後の日本を支える気概を持ってがんばっていただきたい。:金融:1万人以上:利用検討中
- マスタ連携が実現出来れば魅力的だが、具体的な手法によって既存システム改造等が必要になると考えられる。この点について詳細な説明や実施手順・費用・工期を行って欲しい。:建設/土木:500-999人:利用検討中
- 一番目を引いたのはバーチャル検証ラボでした。実際にどのように動くのか見てみたいものです:IT製造(SW):50-99人:利用検討中
- 大いに期待している。:SI/開発:500-999人:利用検討中
- 特異な現場環境、個別の現場での業務の内容へのすりあわせというのがこの手のものは以前から懸念であるように思うが、結局、仕様の壁に阻まれて、導入して悦に入っているのは管理側だけ、というのを何年も見てきました。そういう風にだけはならないでほしいですね。:通信:1万人以上:現利用者
- 複数のアプリ連携がスムーズにできるのは良いと思います。:その他IT関連:10-49人:現利用者

「まあ興味がある」(コメント:業種:ユーザー数:ASP・SaaS利用状況)

- ASP・SaaSに対しての普及・啓蒙活動が必要です:サービス業:10人未満:予定/検討なし
- MIJS会員同士で製品が競合しているように思うのですが、そういった製品間での連携に問題はないのでしょうか?:建設/土木:10-49人:予定/検討なし
- SaaSサービスに興味が出てきたので、MIJSのSaaSサービスについて可能な限り情報をオープンにしてもらえれば、非常に助かります。ノウハウを「共有」することの利点が明確になるとと思います:IT製造(SW):10人未満:現利用者
- SaaS基盤が定着した後の業務効率の可視化:サービス業:10-49人:現利用者
- オーバーシーズ・オペレーションは、当り前では?ずれている気がする、:IT製造(SW):1000-4999人:現利用者
- コスト。:製造業:1万人以上:利用検討中
- このサービスを導入するための業務改革が大変そう。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- これだけの特徴があれば、安心して導入できる:SI/開発:100-499人:予定/検討なし

上記サービスコンセプトやMIJSへのご意見／ご要望があれば、具体的にお聞かせください。(つづき)



「まあ興味がある」(コメント:業種:ユーザー数:ASP・SaaS利用状況)

- こういうものは一社だけでやっても、ユーザは囲いこまれるだけだと感じる。この業界の習いで、インターフェースやサービスはデファクトスタンダードが選ばれる事になると思うが、それを狙ってこの様なサービスが色々な所から出てくるのは良い事だと思うのでがんばって欲しい。ただシングルサインオン等というサービスは、何年も前から大手が試みているサービスだが、未だにサービス提供会社外にまで利用広がる目処が立っていない。上記は、それらのサービスと何が異なっていて、どうして実現できる目処があるのか等を少しは書いて欲しい。サービス提供会社内だけで閉じているサービスを目指しているなら、こういう企画は無駄だと思う。最後に、標準規格で統一すると言う事は、サービス間の移行が簡単になると言う事であり、サービスを利用したアプリケーションの移行も簡単になると言う事である。さてサービス提供側は非標準機能搭載＝移行障壁設置によるエンドユーザ囲い込み以外の、どんな戦略を使って、サービス提供から利益を出そうとするのかに興味がある。:SI/開発:10人未満:現利用者
- コンセプトは素晴らしいが、実際にどの程度実現性があるかが課題。参加企業の顔ぶれももう少し広がりを見せないと、共通規格の確立はきびしいのでは？ 厳しい意見は期待の裏返しと捉えてください:サービス業:50-99人:現利用者
- システムが有効に働くのは、あくまでもユーザであるのでシステム畑の要件や条件は意味がない。レスポンスは、大前提守るべきだ。:その他IT関連:10-49人:現利用者
- セキュリティリスクの上昇は、誰でも心配だと思う。各サービスは、リスクに対する対応を明確にして、ユーザを安心させるべきである。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- データ及びマスタの連携はリアルタイムか?:SI/開発:5000-9999人:現利用者
- どうしても基幹システムは、マスタ管理が煩雑化してしまいます(場合によっては管理し切れない)。解決策があるとよいです。:サービス業:50-99人:予定/検討なし
- どの程度のトレーニングで一般ユーザに開放できるか目安を出してほしい。:ITコンサル:1万人以上:利用検討中
- トランザクション連携、マスタ連携にそれぞれどのような特徴があるのかももう少し知りたい:SI/開発:5000-9999人:検討中
- バーチャル検証ラボで十分な利用期間を用意してもらいたい:SI/開発:500-999人:利用検討中
- バーチャル検証ラボには興味があります。但しコストによりますが、:その他IT関連:100-499人:予定/検討なし

上記サービスコンセプトやMIJSへのご意見／ご要望があれば、具体的にお聞かせください。(つづき)



「まあ興味がある」(コメント:業種:ユーザー数:ASP・SaaS利用状況)

- バーチャル検証ラボは、一定期間貸し出してもらえるのでしょうか。:サービス業:10-49人:利用検討中
- ビジネスロジックは企業ごとによりかなり違う事が多い為、標準規格ではユーザの要求に応えられない事が多いのではないか?:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- マスタ連携する際のマスタの汎用性が不詳。共通規格の共通度といった方が正しいかもしれない。乗換コスト・リスク等とも関連があるように思うので、この辺を明朗会計でおねがいしたい:建設/土木:50-99人:利用検討中
- マスタ連携の情報をもっと知りたい:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- まだ、海の物とも山の物とも言えず様子見。しかしながら、次期システム化計画も迫っており思案中:金融:100-499人:予定/検討なし
- より大々的に公表してほしい:ITコンサル:100-499人:予定/検討なし
- 安価で提供:SI/開発:100-499人:利用予定者
- 営業等の外回りの多い部署からはインターネット経由で社内の情報にアクセスしたいという要望がよくあげられるが、セキュリティの観点からは技術的にも信用がおけず、エンドユーザの意識も低く、かと言って、あまりきつく制限を持たせれば業務に支障がでる、などで導入は時期尚早と感じています:商社/流通:100-499人:現利用者
- 海外等での実績の有無:通信:1000-4999人:現利用者
- 基幹システムのASPやSaaSは検討外ですので、当面は情報収集のレベルで関心がある程度です。:商社/流通:500-999人:利用検討中
- 基幹系業務との連携は必須ゆえ、トランザクション連携は重要である:SI/開発:1000-4999人:現利用者
- 基本的に全世界対応を標準コンセプトとしてほしい。:製造業:50-99人:予定/検討なし
- 業態に見合った業務アプリの提供:その他:100-499人:利用検討中
- 具体的な導入事例を示して欲しい。:製造業:1000-4999人:利用検討中
- 高負荷実験やテスト時の具体的なアドバイスをもらえるサービスが欲しい。:その他:1000-4999人:現利用者
- 事前検証できるのはいいと思います。ただ、検証だけではなくフィット&ギャップもしてくれるととても助かります。:SI/開発:5000-9999人:利用検討中
- 事例的なサンプルがあればもっと導入について具体的なイメージが持てるので、そのような情報を公開・広告してほしい。:SI/開発:10人未満:利用検討中
- 自社への導入だけでなく、顧客企業への導入の計画の際にも検証ラボ等が利用できると良い:SI:10人未満:予定なし

上記サービスコンセプトやMIJSへのご意見／ご要望があれば、具体的にお聞かせください。(つづき)



「まあ興味がある」(コメント:業種:ユーザー数:ASP・SaaS利用状況)

- 実例・成功例を数多く紹介して欲しい。:金融:100-499人:予定/検討なし
- 社内ポータルの実現が簡単にできると助かります:製造業:100-499人:予定/検討なし
- 上記のコンセプトが本当なら素晴らしいです。:製造業:1000-4999人:予定/検討なし
- 信頼できるSIerでないと利用決定には至らないと思います。その点MIJSは選定企業としては入らないかもしれません:IT製造(HW):1万人以上:予定/検討なし
- 先進的なことに色々取り組んでいるということがよくわかった:製造業:1000-4999人:利用検討中
- 早く従業員をよく教育し、かつ低料金で競争に勝つシステムを構築してほしい。:サービス業:100-499人:利用検討中
- 大企業や中堅企業だけでなく、小企業・零細企業向けもターゲットとして、枠組みを考えていただくと、検討しやすい。:製造業:10-49人:予定/検討なし
- 中国で利用の場合、現地購入のPCで日本と同じ用に使えるかどうか。中国語と日本語のバイリンガルに使えるかどうか。:製造業:50-99人:現利用者
- 中小企業向けの安価なものを開発して欲しい:商社/流通:50-99人:予定/検討なし
- 導入するかしないか、二者択一を迫られ、導入するとなると億単位の投資も免れないということが無いので、非常にうれしいサービスです。:製造業:5000-9999人:利用検討中
- 導入期間がかかりそう:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 導入前に連携の検証をできるという特徴は素晴らしい。社内で導入を検討した後に、承認を得やすそう:IT製造(SW):10-49人:現利用者
- 費用について、どのくらいか。教えてほしい。:製造業:500-999人:現利用者
- 費用をかけずに検証できる環境があるとありがたいです。:商社/流通:50-99人:利用検討中
- 必要な時期が来たら、またご提案をお願いしたいと思います。:金融:1万人以上:現利用者
- 標準で対応できないケースへの対応方法をどうするか:IT製造(SW):10-49人:予定/検討なし
- 複数アプリケーションへのシングルサインオンはとても魅力的。:金融:1万人以上:現利用者
- 複数のソフトウェアごとにIDとパスワードが必要となっているため、利便性が悪い。異なるベンダーのソフトウェアをシングルサインオンできれば、利便性が良くなるが、費用対効果を考えた場合、あまり費用はかけられない。自社のセキュリティポリシーに当てはまったセキュリティを持ちつつ、安価で利便性が良いものを提供して欲しい:サービス業:100-499人:予定/検討なし

上記サービスコンセプトやMIJSへのご意見／ご要望があれば、具体的にお聞かせください。(つづき)



「あまり興味ない」(コメント:業種:ユーザー数:ASP・SaaS利用状況)

- MIJSの製品は統一のプラットフォーム(ミドルウェア)が確立されていない。つぎはぎの機能連携では不十分:ITコンサル:10人未満:現利用者
- SaaSの展望がどうなのか将来性が知りたいと思いました。:製造業:100-499人:利用検討中
- SaaS自体が一般的になれば良いと思います。:通信:50-99人:利用検討中
- SLAの明確な提示:IT製造(SW):10人未満:利用予定者
- イメージがわからない:IT製造(HW):50-99人:現利用者
- サポートを1か所で受けられるというのは、ユーザとしてもありがたいと思う。その他連携については、それぞれのアプリケーションやネットワーク構成などいろいろとつめる必要があり、しっかりしたところでないとうまく機能しない気もする。:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- シングルサインオン機能はきれいに導入できた例が無いので(条件がクリアできずに結局うやむやになってしまう)様々な環境に幅広く対応しているものを実装して欲しい:その他IT関連:1000-4999人:予定/検討なし
- セキュリティ面が心配。:製造業:10人未満:予定/検討なし
- そんなに簡単にうまくいくものか?と疑問を覚えてしまう。:サービス業:10人未満:現利用者
- どのような業務に対してサービスを提供してもらえるかということのほうが重要な気がする。機能的な面としてはよいと思う。:SI/開発:10人未満:利用検討中
- どのような使い方ができるのか、具体例を教えてください。:SI/開発:5000-9999人:利用検討中
- まだ、これを検証するレベルにараずで、申し訳ないです。:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- ユーザー指定の規格によるデータ連携が取れると良い:SI/開発:10人未満:予定/検討なし
- ワンストップサービスを上手く実現することができれば、非常にメリットが高いと思われる:ITコンサル:50-99人:予定なし
- 概要、特徴には、SaaSの基本的な機能そのものに見えます。この「サービス」のセールスポイントは何なのかがわかりません。:ITコンサル:100-499人:予定/検討なし
- 既存データの移植に伴う工数が心配:製造業:50-99人:予定/検討なし
- 具体的な事例:IT商社/流通:100-499人:予定/検討なし
- 現在開通している回線を変えずに導入出きるのが好ましい:製造業:500-999人:予定/検討なし
- 情報ソースを充実して欲しい。:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし

上記サービスコンセプトやMIJSへのご意見／ご要望があれば、具体的にお聞かせください。(つづき)



「あまり興味ない」(コメント:業種:ユーザー数:ASP・SaaS利用状況)

- 中小企業向けの価格設定はあるのだろうか？固定料金制ではなく、従量制の料金設定はどうか:商社/流通:50-99人:予定/検討なし
- 導入の際にどれだけの効果があるかの具体例がほしい:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 導入事例が聞きたい。:SI/開発:1000-4999人:予定/検討なし
- 標準規格がどこまで適用できるものか。弊社では標準規格化までいたっておらず(今後も不明)、適用が困難と考えます。:SI/開発:100-499人:利用検討中
- 標準規格の策定に時間とコストがかかると思う。:SI/開発:50-99人:予定/検討なし
- 密結合されたシステムの場合とくらべ、性能の確保が難しいと思います。頑張ってください:SI:5000-9999人:予定なし

「まったく興味ない」(コメント:業種:ユーザー数:ASP・SaaS利用状況)

- SaaSを知らないので、コメントできません。:SI/開発:1万人以上:予定/検討なし
- セキュリティ、可用性が問題:その他IT関連:1万人以上:利用検討中
- マスタ連携は、部署が異なり、作成の意図や名称が異なっていることが大多数で、非常に難しい。どこから手をいれていいやわからない。テンプレートのようなものが出来ればあってほしい:SI/開発:100-499人:予定/検討なし
- 似たようなコンセプトを持つ製品はいくらでもある。それらに対する優位性が不明。・サービスを未来永劫(少なくとも10年単位で)提供しつづけるサービス保証はできるのか。・”標準”って言われても勝手に決めた独自標準。ISO等の業界標準にできるのか。・中小企業においては、各種データ連携に対する要求度は低い。”標準化”していく必要性を感じない。:ITコンサル:10-49人:#N/A
- 導入する予算が高いのでは:教育機関:100-499人:予定/検討なし
- 難しすぎる。具体的でないものにお金を投資するわけには行かない。:SI/開発:1万人以上:予定/検討なし
- 理解が難しい:IT商社/流通:10-49人:予定/検討なし



MIJS



MIJS

MIJSコンソーシアム
メイド・イン・ジャパン・ソフトウェア・コンソーシアム